

## 第4章

### 教育相談・就学先決定における現状と課題（2）

#### ー保護者への質問紙調査及び

#### フォーカス・グループ・インタビューからー

##### I. はじめに

##### II. 保護者への質問紙調査

##### III. 保護者へのフォーカス・グループ・インタビュー調査

##### IV. 考察

##### 章末資料

##### ①保護者調査票

##### ②FGI 質問項目

##### ③FGI 説明文



## I. はじめに

障害のある子どもの就学に係る教育相談では、本人や保護者の意見を最大限尊重しながら、子どもの障害の状態や教育上必要な支援内容等を考慮し、就学先について総合的に判断し、決定することが求められている。そのため、保護者の意見と就学先を決定する教育委員会との合意形成を行うことが重要とされる。

各県の教育委員会と各市町の教育委員会を対象に、就学先決定に関する現状や課題を把握した第3章では、合意形成に困難さを感じていることが示された。特に保護者の強い要望や保護者の障害受容の不十分さに起因する保護者のとらえ方と、教育委員会のとらえ方との相違からくる合意形成の困難さが多く聞かれた。また、第3章では、保護者支援を担当している機関の担当者を対象に、保護者が就学に係る教育相談や就学先決定において感じる課題等についても聞き取りを行っており、その結果、保護者側は合意形成について様々なとらえ方をしていることや、子どもの学校生活に対する不安感等を抱いていることが示された。このことは、教育委員会の行政側と保護者との間で、十分な共通理解がなされているとは言い難い状況を示唆している。徳永(2017)は、障害のある子どもの就学先を考える際は、保護者の障害受容も含めて、心理的に複雑な状況の中で行われることを理解し、家庭状況や経済状況など、様々な要因を考慮しなければいけないと指摘している。そのため、保護者が子どもの就学に係る教育相談においてどのような気持ちで臨んでいるか、保護者が安心して教育相談を行い、子どもの就学先を決定することを支えるためには、どのような情報を提供し、どのようにかかわるべきか等について考えることが求められる。平成25年の学校教育法施行令の一部改正に伴って合意形成の重要性が強調されている今日、教育委員会と保護者との合意形成をより円滑に行うことを推進するために、どのような情報を提供し、どのように就学に係る教育相談を行うべきかについて、保護者の視点から考えることは重要であると考えられる。

そこで、第4章では、子どもの就学に係る教育相談を受けて現在小学校や特別支援学校に入学している子どもを持つ保護者を対象に、これまで受けてきた就学に係る教育相談において提供された情報や手続き、時期等の適切さや、就学に係る教育相談を受けた当時の気持ち等について検討を行うことを目的とする。保護者側がとらえる就学に係る教育相談の効果や課題について整理することを通して、障害のある子どもの就学先を決定するプロセスの在り方及び、就学に係る教育相談にかかわる教育委員会や担当者の情報提供やかかわりの在り方について提案する。

(李 熙馥)

## Ⅱ．保護者への質問紙調査

### 1．目的

保護者がこれまで受けてきた就学に係る教育相談や就学先決定に向けた相談の際に提供された情報や手続き、時期等が適切であったかを明らかにするために、子どもの就学に係る教育相談を受け、現在小学校や特別支援学校に就学している子どもの保護者を対象とし、質問紙調査を行った。以下に、本調査の方法、結果・小考察、まとめを記述する。

### 2．方法

#### (1) 調査の対象者

調査対象者は、平成 25 年 9 月の学校教育法施行令の一部改正による就学先決定の仕組みの改正以降に就学し、平成 31 年 4 月 1 日時点で、小学校あるいは特別支援学校の 1 年生から 6 年生までの子どもをもつ保護者を対象とした。地域バランスを考慮し、東北、関東甲信越、中国、九州の 4 つの地域に在住する保護者を対象とした。保護者への依頼や選定は、療育センターや児童発達支援センター等の療育機関、特別支援学校や市の教育委員会等を通して行い、調査協力に同意する保護者を対象とした。

参加者数は、表 4－2－1 の通り、東北地域 11 人、関東甲信越地域 5 人、中国地域 10 人、九州地域 6 人の合計 32 人であった。なお、障害種によって就学に係る教育相談の在り方が異なることは想定していないため、障害種は問わないこととした。

表 4－2－1 調査対象者（人）

| 地域      | 小学校 | 特別支援学校 | 合計 |
|---------|-----|--------|----|
| 東北地域    | 1   | 10     | 11 |
| 関東甲信越地域 | 4   | 1      | 5  |
| 中国地域    | 6   | 4      | 10 |
| 九州地域    | 5   | 1      | 6  |
| 合計      | 16  | 16     | 32 |

#### (2) 手続き

本調査の対象者は、地域の教育委員会や学校長の学校運営、保護者や子どもの日常生活に支障が生じることがないように、研究協力者との協議を重ね、慎重に選定した。具体的には、研究チームの研究職員及び研究協力者との信頼関係が構築されている表 4－2－1 に示した 4 つの地域の教育委員会や学校長、療育施設長等に本調査の趣旨を説明し、協力の内諾を得た上で保護者に直接、調査協力について依頼を行った。調査対象者となる保護者には、当該の教育委員会や学校長、療育施設長等を通じて事前に趣旨説明を行い、同意を得られた保護者に質問紙を郵送した。質問紙調査は、回答への過度な負担を避けるために所要時間は、約 10 分程度となるようにした。

### （３）データ収集方法

調査期間は 2019 年 10 月～12 月であり、内諾を得た 32 名に郵送し、全員から回答を得た。そして、回答済の質問紙に基づいて、個人が特定されないように各データを集計した。

### （４）質問紙調査の項目

各自治体が行っている就学に係る教育相談の内容について、保護者がどのようにとらえているかを明らかにするために、調査項目は、第 3 章で示した教育相談・就学先決定における現状と課題を明らかにするために行った各自治体の教育委員会への訪問調査の結果を参考に作成した。具体的な質問紙調査の項目を表 4－2－2 に示す。

なお、本調査では、保護者に分かりやすい質問紙とするために、就学を入学と記述することとした。

**表 4－2－2 保護者への質問紙調査の項目**

- 
- |                                                   |
|---------------------------------------------------|
| (1)子どもの属性(現在の学びの場、学年、障害診断名(疑いも含む))                |
| (2)子どもの学びの場が入学時と現在が異なる場合の状況                       |
| (3)現在の在籍に決めたきっかけ                                  |
| (4)入学先を決めるための相談開始時期                               |
| (5)教育委員会が主催する入学先決定に関する説明会の有無                      |
| (6)入学先決定に関する説明会の開催時期                              |
| (7)説明会の時期は適切であったか                                 |
| (8)入学に関する説明会でどのような内容が提供されたか                       |
| (9)入学先決定に関する説明会で提供された内容のうち聞くことができてよかったこと          |
| (10)入学に関する説明会で「当時、こういうことを聞いておけばもう少し楽だったかな」と思うこと   |
| (11)入学に関する説明会に参加しなかった理由                           |
| (12)入学先を決める際に何を参考にしたか                             |
| (13)入学先を決める際に誰とよく相談したか                            |
| (14)お子さんの在籍を見直したい(すでに変更した)場合に手続きの方法や時期等について知っているか |
| (15)入学後のフォロー内容                                    |
- 

### （５）倫理的配慮

保護者への質問紙調査を行うに当たり、当研究所の倫理審査委員会において承認を得た。依頼状にて、保護者の了解、承諾、同意を得るとともに、口頭と文書で研究の趣旨について説明し、書面で同意を得た。調査協力は任意であり、事前・途中において辞退をしても不利益を被ることは一切ないことや、居住地や在籍校、氏名など保護者や子どもの個人情報が特定されないように処理すること、得られた情報を厳重に管理することを説明した。

### 3. 結果と小考察

ここでは、質問紙の調査項目別の結果を記す。また、表中の数値は人数又は件数を示す。なお、(1)～(5)及び(13)～(16)の質問は保護者全員に実施した結果を示している。(6)～(11)は(5)の質問について、「説明会有り、参加した」と回答した保護者、(12)は(5)の質問について「説明会には参加しなかった」、「説明会はなかった」、「わからない」と回答した保護者の回答結果を示す。

#### (1) 子どもの現在の学びの場・学年・障害診断名（疑いも含む）

子どもの属性（現在の学びの場、学年、障害診断名（疑いも含む））について結果を示す。まず、子どもの現在の学びの場について、結果を表4-2-3に示す。保護者32人の回答のうち、子どもが「小学校」に入学している保護者が16人、子どもが「特別支援学校」に入学している保護者が16人であり、「小学校」と「特別支援学校」が同数であった。「小学校」の回答のうち、「特別支援学級」が9人で最も多く、次いで「通常の学級」が4人、「通級による指導」が3人であった。

表4-2-3 子どもの現在の学びの場(人)

|        |         |    |    |
|--------|---------|----|----|
| 小学校    | 通常の学級   | 4  | 16 |
|        | 特別支援学級  | 9  |    |
|        | 通級による指導 | 3  |    |
| 特別支援学校 | 特別支援学校  | 16 |    |

子どもの現在の学年別人数については、結果を表4-2-4に示す。小学校では「1年生」、「2年生」、「3年生」が最も多くそれぞれ4人であった。次いで「5年生」の2人、「4年生」と「6年生」はそれぞれ1人であった。特別支援学校では、「3年生」が最も多く6人であった。次いで、「2年生」、「4年生」、「6年生」がそれぞれ3人で、「5年生」は1人であった。「1年生」はいなかった。

表4-2-4 対象児童の現在の学年別人数(人)

|                                   |     |   |        |     |   |
|-----------------------------------|-----|---|--------|-----|---|
| 小学校<br>通常の学級<br>特別支援学級<br>通級による指導 | 1年生 | 4 | 特別支援学校 | 1年生 | 0 |
|                                   | 2年生 | 4 |        | 2年生 | 3 |
|                                   | 3年生 | 4 |        | 3年生 | 6 |
|                                   | 4年生 | 1 |        | 4年生 | 3 |
|                                   | 5年生 | 2 |        | 5年生 | 1 |
|                                   | 6年生 | 1 |        | 6年生 | 3 |

子どもの障害診断名（疑いも含む）は、記述式により回答を得た。ここでは、保護者が実際に記入した「疑いを含む障害診断名等」をそのまま表4-2-5に明記し、カッコ付けで人数を添えることとした。

小学校と特別支援学校に共通して、いずれも自閉症スペクトラム障害のある子どもをもつ保護者が多い傾向がみられた。特別支援学校では、知的障害や先天性脳性麻痺等の障害のある子どもの保護者がいた。

**表 4-2-5 対象児童の障害診断名等（疑いも含む）（カッコ内は人数）**

|        |         |                                                                                 |
|--------|---------|---------------------------------------------------------------------------------|
| 小学校    | 通常の学級   | 自閉症スペクトラム（１）、広汎性発達障害（１）、アスペルガー症候群（１）、知的遅れ（１）                                    |
|        | 特別支援学級  | 自閉症スペクトラム（５）、高機能自閉症（１）、発達障害（１）、アスペルガー症候群（１）、知的障害（１）                             |
|        | 通級による指導 | 自閉症スペクトラム（２）、体幹の機能障害（１）                                                         |
| 特別支援学校 |         | 自閉症スペクトラム（７）、知的障害（４）、てんかん（２）、先天性心疾患（１）、広汎性発達障害（１）、脳梁欠損症（１）、先天性脳性麻痺（１）、ダウン症候群（１） |

**（２）子どもの学びの場が現在と入学時で異なる場合の状況**

「子どもの学びの場が現在と入学時で異なる場合の状況」について、表 4-2-6 に示したように 1 名の保護者から回答を得た。変更の理由として、児童の学級での状態を踏まえた変更と記されていた。

**表 4-2-6 子どもの学びの場が現在と入学時で異なる場合**

|           |                    |
|-----------|--------------------|
| 回答人数      | 1人                 |
| 入学時の学びの場  | 知的障害特別支援学級         |
| 現在の学びの場   | 自閉症・情緒障害<br>特別支援学級 |
| 在籍を変更した時期 | 4年生4月              |

**（３）現在の在籍に決めたきっかけ**

「現在の在籍に決めたきっかけ」について、質問項目の中から 3 つまで選択可として回答してもらった結果を表 4-2-7 に示す。なお、小学校に子どもが入学している保護者 16 人中 15 人から、特別支援学校に子どもが入学している保護者 16 人全員から回答が得られた。

小学校では「子どもに必要な配慮や支援が適切に受けられると思ったから」が最も多く 9 件であった。次いで「地域で育てたかったから」及び「通学に便利だから（例：自宅から学校が近い、通学バスがある等）」がそれぞれ 5 件、「みんなと同じところに行かせたかったから」が 4 件、「医師や心理士などの専門家等からの勧め」、「子どもの学力をしっかりと保証してくれそうだったから」がそれぞれ 3 件であった。こうしたことから、保護者によっては、小学校を就学先として検討する際の理由として、自宅からの通学が便利な居住地の小学校で必要な配慮や支援を受けながら、地域の子どもと同じ学校に通わせたいという願いがある可能性も考えられる。

特別支援学校では「子どもに必要な配慮や支援が適切に受けられると思ったから」が小学校と同様に最も多く、14 件であった。次いで「医師や心理士などの専門家等からの勧め」が 6 件、「家族（夫、祖父母等）からの意見」、「教育委員会や幼稚園・保育所等の関係者からの勧め」、「学校見学等で子どもがその学校を希望したから（相性がよさそうだったから）」がそれぞれ 3 件であった。このことから、医師や心理士などの専門家等や教育委員会や幼稚園・保育所等の関係者からの勧めに基づき、家族（夫、

祖父母等）からの意見を参考にして、必要な配慮や支援が適切に受けられる特別支援学校に就学した可能性も考えられる。

「その他」の自由記述による回答については、小学校から2件得られた。具体的には、「小学校の見学や特別支援学級の先生と話をし、保護者や子どもが希望した」、「他の選択肢が分からなかった」との回答が得られた。特別支援学校においては、「その他」の自由記述による回答はなかった。

**表4-2-7 現在の在籍に決めたきっかけ（3つまで選択可）（件数）**

| 選択項目                              | 小学校<br>(n=15) | 特別支援学校<br>(n=16) |
|-----------------------------------|---------------|------------------|
| 子どもに必要な配慮や支援が適切に受けられると思ったから       | 9             | 14               |
| 地域で育てたかったから                       | 5             | 0                |
| 家族(夫、祖父母等)からの意見                   | 2             | 3                |
| 教育委員会や幼稚園・保育所等の関係者からの勧め           | 0             | 3                |
| 医師や心理士などの専門家等からの勧め                | 3             | 6                |
| 通学に便利だから(例: 自宅から学校が近い、通学バスがある 等)  | 5             | 1                |
| みんなと同じところに行かせたかったから               | 4             | 0                |
| 就学奨励費等、経済的な補助がもらえたから              | 0             | 1                |
| 親の仕事の場から近いから                      | 0             | 1                |
| 学校見学等で子どもがその学校を希望した(相性がよさそうだったから) | 0             | 3                |
| 子どもの学力をしっかりと保証してくれそうだったから         | 3             | 2                |
| 学童・児童館・デイサービス等が利用できたから            | 1             | 2                |
| その他                               | 2             | 0                |

#### （４）入学先を決めるための相談開始時期

「入学先を決めるための相談開始時期」についての回答結果を表4-2-8に示す。小学校の保護者と特別支援学校の保護者のいずれも16人全員の回答が得られた。

小学校では「5歳の時」が最も多く10件であった。次いで「4歳の時」の4件で、「就学前健康診断（入学する予定の学校で行う健康診査）」は1件であった。「その他」については1件であり、「就学前相談」との回答が得られた。

特別支援学校では、「5歳の時」が小学校と同様に最も多く13件であった。次いで「就学前健康診断（入学する予定の学校で行う健康診査）」が2件であった。また、「3歳の時」が1件あった。

小学校と特別支援学校に共通して「5歳の時」の件数が多かった。このことについては、厚生労働省の「軽度発達障害に対する気づきと支援のマニュアル（厚生労働省：2007）」では、軽度発達障害の早期発見の時期として、「3歳児健診以降から小学校に入学するまでの間、たとえば5歳児健診あるいは発達相談を行うのがよく、5歳児健診と事後相談とで一つのパッケージであるべき」と記述されている。このことから「5歳の時」との回答が多かったことが考えられる。

表 4－2－8 入学先を決めるための相談開始時期（件数）

| 選択項目                      | 小学校<br>(n=16) | 特別支援学校<br>(n=16) |
|---------------------------|---------------|------------------|
| 3歳以前                      | 0             | 0                |
| 3歳の時                      | 0             | 1                |
| 4歳の時                      | 4             | 0                |
| 5歳の時                      | 10            | 13               |
| 就学前健康診断(入学する予定の学校で行う健康診査) | 1             | 2                |
| その他                       | 1             | 0                |

（５）教育委員会が主催する入学先決定に関する説明会の有無

「教育委員会が主催する入学先決定に関する説明会の有無」についての回答結果を表 4－2－9 に示す。小学校の保護者、特別支援学校の保護者、いずれも 16 人全員の回答が得られた。

小学校では「説明会有り、参加した」が最も多く 10 件であった。次いで「説明会があったかどうかわからない」が 4 件、「説明会は無かった」が 2 件であった。「説明会があったが、参加しなかった」の回答は無かった。

特別支援学校では、「説明会有り、参加した」と「説明会があったかどうかわからない」がそれぞれ 6 件と多く、「説明会有り、参加した」は小学校でも最も多い回答であった。「説明会は無かったが、参加しなかった」と「説明会は無かった」は 2 件であった。

「説明会は無かった」との回答は小学校と特別支援学校から 2 件ずつ得られているが、同じ地域の参加者で「説明会有り、参加した」と回答している参加者もいた。また、小学校と特別支援学校において、一定数の保護者が「説明会があったかどうかわからない」との回答もあったことから、教育委員会が主催する入学先決定に関する説明会の開催の周知を適切に行う必要があると考えられる。

表 4－2－9 教育委員会が主催する入学先決定に関する説明会の有無（件数）

| 選択項目              | 小学校<br>(n=16) | 特別支援学校<br>(n=16) |
|-------------------|---------------|------------------|
| 説明会有り、参加した        | 10            | 6                |
| 説明会は無かったが、参加しなかった | 0             | 2                |
| 説明会は無かった          | 2             | 2                |
| 説明会があったかどうかわからない  | 4             | 6                |

（６）入学先決定に関する説明会の開催時期

質問項目（５）にて、「説明会有り、参加した」と回答した保護者に「入学先決定に関する説明会の開催時期」についての質問を行い、小学校 10 人中 7 人、特別支援学校 6 人中 3 人から回答が得られた。その結果を表 4－2－10 に示す。

小学校では、「5 月」と「6 月」がそれぞれ 2 件、「7 月」、「秋頃」、「10～12 月」がそれぞれ 1 件であった。

特別支援学校では、「夏頃」、「秋頃」、「覚えていない」がそれぞれ1件であった。

こうしたデータからも、できるだけ早く、遅くとも秋頃までに説明会を開催し、相談担当者と保護者が就学先に関する協議の時間を確保することが望ましいと考えられる。

**表 4－2－10 入学先決定に関する説明会の開催時期（件数）**

| 回答     | 小学校<br>(n=7) | 特別支援学校<br>(n=3) |
|--------|--------------|-----------------|
| 5月     | 2            | 0               |
| 6月     | 2            | 0               |
| 7月     | 1            | 0               |
| 夏頃     | 0            | 1               |
| 秋頃     | 1            | 0               |
| 10～12月 | 1            | 1               |
| 覚えていない | 0            | 1               |

#### （7）説明会の時期は適切であったか

質問項目（5）にて、「説明会があり、参加した」と回答した保護者に「説明会の時期は適切であったか」についての質問を行い、小学校の保護者10人中8人、特別支援学校の保護者6人中6人から回答が得られた。その回答結果を表4－2－11に示す。「もっと早い方がよかった」及び「もっと遅くてもよかった」の時期については、記述にて回答を求めた。

小学校では「適切だった」が最も多く6件であった。「もっと遅くてもよかった」は1件であったが、時期の記述はなかった。その他、「もっと早いほうがよかった」が1件あり、時期は「1月」と回答していた。

特別支援学校では、「適切だった」が小学校と同様に最も多く、5件あった。その他、「もっと早い方がよかった」の回答が1件あったが時期の記述はなく、「もっと遅くてもよかった」の回答はなかった。

**表 4－2－11 説明会の時期は適切であったか（件数）**

| 選択項目             | 小学校<br>(n=8) | 特別支援学校<br>(n=6) |
|------------------|--------------|-----------------|
| 適切だった            | 6            | 5               |
| もっと早い方がよかった      | 1            | 1               |
| もっと早い方がよかった（ ）月頃 | 1月           | 記述なし            |
| もっと遅くてもよかった      | 1            | 0               |
| もっと遅くてもよかった（ ）月頃 | 記述なし         |                 |

#### （8）入学に関する説明会でどのような内容が提供されたか

質問項目（5）にて、「説明会があり、参加した」と回答した保護者に「入学に関する説明会でどのような内容が提供されたか」について選択項目を複数選択可として質問を行い、小学校の保護者10人中9人、特別支援学校の保護者6人中6人から回答が

得られた。その回答結果を表4-2-12に示す。

小学校は「入学先が決まるまでの手続きの流れ」及び「障害がある場合の入学先決定の方法や流れ」がそれぞれ7件で最も多かった。次いで「入学先決定について、教育委員会と保護者が話し合うことができることやその時期について」と「入学後の在籍先について見直すことができることやその手続き」がそれぞれ6件、「学校体験の有無や手続きについて」が5件、「特別支援学校、特別支援学級、通級による指導、通常の学級それぞれの場所における学習内容や学校生活の違いや特徴に関する説明」、「入学後に学校で受けることができる配慮内容について」、「入学先についての相談窓口」がそれぞれ4件であった。

特別支援学校については「入学先が決まるまでの手続きの流れ」、「障害がある場合の入学先決定の方法や流れ」、「特別支援学校、特別支援学級、通級による指導、通常の学級それぞれの場所における学習内容や学校生活の違いや特徴に関する説明」、「入学後に学校で受けることができる配慮内容について」、「学校体験の有無や手続きについて」がそれぞれ5件で最も多かった。「入学先が決まるまでの手続きの流れ」と「障害がある場合の入学先決定の方法や流れ」は、小学校でも最も回答の多い項目であった。次いで「入学先決定について、教育委員会と保護者が話し合うことができることやその時期について」が4件であった。

表4-2-12 入学に関する説明会でどのような内容が提供されたか（複数選択可）（件数）

| 選択項目                                                        | 小学校<br>(n=9) | 特別支援学校<br>(n=6) |
|-------------------------------------------------------------|--------------|-----------------|
| 入学先が決まるまでの手続きの流れ                                            | 7            | 5               |
| 障害がある場合の入学先決定の方法や流れ                                         | 7            | 5               |
| 特別支援学校、特別支援学級、通級による指導、通常の学級それぞれの場所における学習内容や学校生活の違いや特徴に関する説明 | 4            | 5               |
| 特別支援教育に関する用語等の説明                                            | 1            | 2               |
| 入学後の在籍先について見直すことができることやその手続き                                | 6            | 1               |
| 入学後に学校で受けることができる配慮内容について                                    | 4            | 5               |
| 必要な支援内容を記載した文書(あるいはファイル、シート)等の取り扱い                          | 2            | 2               |
| 学校体験の有無や手続きについて                                             | 5            | 5               |
| 入学先決定について、教育委員会と保護者が話し合うことができることや時期                         | 6            | 4               |
| 入学先についての相談窓口                                                | 4            | 1               |
| 関連機関の一覧について                                                 | 3            | 1               |
| 障害のある子どもの将来像について                                            | 1            | 2               |
| その他                                                         | 1            | 0               |

こうした結果については、この質問項目に関連する質問項目(10)「入学先決定に関する説明会で提供された内容のうち聞けてよかったこと」や質問項目(11)「入学に関する説明会で、当時、こういうことを聞いておけばもう少し楽だったかなと思うこと」の各質問項目にて、それぞれの結果と関連付けて考察を述べる。

「その他」の自由記述による回答は、小学校から1件得られ、「補助金」であった。就学奨励費等についての情報提供がなされたのではないかと推察することができる。

### (9) 入学に関する説明会での内容は適切であったか

質問項目（5）にて、「説明会有り、参加した」と回答した保護者に、「入学に関する説明会での内容は適切であったか」について複数選択可として質問を行い、小学校の保護者 10 人中 9 人、特別支援学校の保護者 6 人中 6 人から回答が得られた。その回答結果を表 4－2－13 に示す。

小学校では「知りたい内容が整理されていて、参考になった」が 4 件で、多かった。次いで「まあまあ参考になった」が 3 件、「情報が多くて、理解することが難しかった」が 1 件であった。

特別支援学校では、「知りたい内容が整理されていて、参考になった」が 5 件で、小学校と同様に多かった。「情報が多くて、理解することが難しかった」は 1 件であった。

こうした結果について、小学校と特別支援学校のいずれも概ね「参考になった」、「まあまあ参考になった」が多い回答結果が得られたことから、説明会の開催の効果はあったと考えられる。そのため、参加しなかった保護者への参加を促す取組が大切になると考えられる。

**表 4－2－13 入学に関する説明会での内容は適切であったか（複数選択可）（件数）**

| 選択項目                  | 小学校<br>(n=9) | 特別支援学校<br>(n=6) |
|-----------------------|--------------|-----------------|
| 知りたい内容が整理されていて、参考になった | 4            | 5               |
| まあまあ参考になった            | 3            | 0               |
| 言葉が難しく、理解することが難しかった   | 0            | 0               |
| 情報が多くて、理解することが難しかった   | 1            | 1               |
| 内容が分かりにくく、参考にはならなかった  | 0            | 0               |
| その他                   | 1            | 0               |

「その他」の自由記述による回答は、小学校の保護者から 1 件得られ、「障害児は特別支援学級に在籍することが望ましいということや校区外の学校には行かないようにというような若干のプレッシャーがあり、その 2 点をしきりに説明を受けただけで参考にはならなかった様に思う」との声であった。こうしたことから、保護者の希望や子どもの状況を踏まえ、保護者への丁寧な対応が大切であると考えられる。

### (10) 入学先決定に関する説明会で提供された内容で聞けてよかったこと

質問項目（5）にて、「説明会有り、参加した」と回答した保護者に「入学先決定に関する説明会での提供された内容で聞けてよかったこと」について複数選択可として質問を行い、小学校の保護者 10 人中 10 人、特別支援学校の保護者 6 人中 6 人から回答が得られた。その回答結果を表 4－2－14 に示す。

小学校では「学校体験の有無や手続きについて」が 7 件で最も多かった。次いで「障害がある場合の入学先決定の方法や流れ」と「特別支援学校、特別支援学級、通級による指導、通常の学級それぞれの特徴や違いに関する説明」がそれぞれ 6 件、「入学先が決まるまでの手続きの流れ」、「入学後の在籍先について見直すことができることやその手続き」、「入学先決定について、教育委員会と保護者が話し合うことができるこ

とやその時期について」が5件、「入学先についての相談窓口」が4件であった。

特別支援学校では「特別支援学校、特別支援学級、通級による指導、通常の学級それぞれの特徴や違いに関する説明」が6件で最も多く、これは小学校でも2番目に多い回答であった。次いで「入学先が決まるまでの手続きの流れ」と「障害がある場合の入学先決定の方法や流れ」が4件であった。小学校で最も多かった「学校体験の有無や手続きについて」は、特別支援学校での回答は2件のみであった。

**表 4－2－14 入学先決定に関する説明会で提供された内容のうち聞けてよかったこと  
(複数選択可) (件数)**

| 選択項目                                        | 小学校<br>(n=10) | 特別支援学校<br>(n=6) |
|---------------------------------------------|---------------|-----------------|
| 入学先が決まるまでの手続きの流れ                            | 5             | 4               |
| 障害がある場合の入学先決定の方法や流れ                         | 6             | 4               |
| 特別支援学校、特別支援学級、通級による指導、通常の学級それぞれの特徴や違いに関する説明 | 6             | 6               |
| 特別支援教育に関する用語等の説明                            | 1             | 2               |
| 入学後の在籍先について見直すことができることやその手続き                | 5             | 0               |
| 入学後に学校で受けることができる配慮内容について                    | 3             | 3               |
| 必要な支援内容を記載した文書(あるいはファイル、シート)等の取り扱いについて      | 2             | 0               |
| 学校体験の有無や手続きについて                             | 7             | 2               |
| 入学先決定について、教育委員会と保護者が話し合うことができることや時期         | 5             | 1               |
| 入学先についての相談窓口                                | 4             | 0               |
| 関連機関の一覧について                                 | 3             | 0               |
| 障害のある子どもの将来像について                            | 2             | 1               |
| その他                                         | 1             | 0               |

質問項目(8)「入学に関する説明会でどのような内容が提供されたか」の結果と比較してみると、今回、聞けてよかったと選択された項目の中で上記のような件数の多い項目は、質問項目(8)で選択された項目と、小学校、特別支援学校のいずれにおいても対応していた。このことから、聞けてよかったと保護者が感じて印象に残った項目である可能性もある。「入学に関する説明会でどのような内容が提供されたか」で回答された項目は、保護者が必要としている情報を強調して伝達する工夫も大切であると考えられる。

3件以下の項目については小学校、特別支援学校ともに表4－2－14の通りの回答である。「その他」の自由記述による回答は、小学校から1件得られ、「補助金」との回答であったが、質問項目(8)「入学に関する説明会でどのような内容が提供されたか」でも同様な記述が見られ、一部の保護者ではあるが、就学奨励費等のことであると推察することができることから、就学奨励費等について関心があった可能性があると考えられる。

(11) 入学に関する説明会で、「当時、こういうことを聞いておけばもう少し楽だったかな」ということ

質問項目（５）にて、「説明会があり、参加した」と回答した保護者に、「当時、こういうことを聞いておけばもう少し楽だったかなと思うこと」について複数選択可能として質問を行い、小学校の保護者 10 人中 6 人、特別支援学校の保護者 6 人中 4 人から回答が得られた。その回答結果を表 4－2－15 に示す。

小学校では「もっとこういう情報があればよかったと思うこと」の回答が 4 件みられた。次いで「入学後に学んでいる場所について見直すことができることやその手続き」と「入学後に学校で受けることができる配慮内容について」が 3 件、「必要な支援内容を記載した文書（あるいはファイル、シート）等の取り扱いについて」、「障害のある子どもの将来像について」が 2 件であった。こうした結果は、この質問項目に関連する質問項目（８）「入学に関する説明会でどのような内容が提供されたか」の結果や、質問項目（10）「入学先決定に関する説明会で提供された内容のうち聞いてよかったこと」の結果と比較してみると、「入学後に学んでいる場所について見直すことができることやその手続き」を除いては、質問項目（８）と質問項目（10）では選択回答数が少ないため、保護者に十分な説明がなされなかった可能性が考えられる。または、学びの場の見直しや、支援ファイル等の文書の取り扱い、障害のある子どもの将来像に関しては、子どもが入学後に直面する課題であるため、就学に係る教育相談の時には、保護者にとって優先順位が低かった可能性も考えられる。このことは、入学後に直面することについては、入学後に情報を提供する、あるいは入学前の就学に係る教育相談においても、保護者に見通しを持たせるためにより分かりやすく伝える等の工夫が求められると考えられる。

特別支援学校では「もっとこういう情報があればよかったと思うこと」、「関連機関の一覧について」がそれぞれ 2 件、「入学後に学んでいる場所について見直すことができることやその手続き」、「入学先決定について、教育委員会と保護者が話し合うことができることやその時期」についてはそれぞれ 1 件であった。

「もっとこういう情報があればよかったと思うこと」の自由記述による回答は、上記のように、小学校の保護者から 4 件、特別支援学校の保護者から 2 件得られた。小学校の保護者からは、「各学校の支援について、支援員等の情報」、「下校後の放課後デイサービスの一覧」、「中学校や高校に進学する時の進路先」、「通常の学級に在籍している児童が受けることができる配慮内容や過去の事例」という回答があった。特別支援学校の保護者からは、「支援学校の中学部、高等部について相談したかった」、「全く分からないところからのスタートのため、もう少し早い段階で、経験者（OB）の経験談などを聞くなど、全てにおいて考える時間が足りなかった」等の記述が得られた。これらの回答の多くは、実際の学校での生活や進路に関することであり、前述したように、やはり入学してから直面する課題についても、事前に情報がほしかったとらえている様子がみられた。

表 4－2－15 入学に関する説明会で、「当時、こういうことを聞いておけばもう少し楽だったかなと思うこと」（複数選択可）（件数）

| 選択項目                                        | 小学校<br>(n=6) | 特別支援学校<br>(n=4) |
|---------------------------------------------|--------------|-----------------|
| 入学先が決まるまでの一般的な手続きの流れ                        | 0            | 0               |
| 障害がある場合の入学先決定の方法や流れ                         | 1            | 0               |
| 特別支援学校、特別支援学級、通級による指導、通常の学級それぞれの特徴や違いに関する説明 | 1            | 0               |
| 特別支援教育に関する用語等の説明                            | 1            | 0               |
| 入学後に学んでいる場所について見直すことができることやその手続き            | 3            | 1               |
| 入学後に学校で受けることができる配慮内容について                    | 3            | 0               |
| 必要な支援内容を記載した文書(あるいはファイル、シート)等の取り扱いについて      | 2            | 0               |
| 学校体験の可否や手続きについて                             | 0            | 0               |
| 入学先決定について、教育委員会と保護者が話し合うことができることやその時期について   | 0            | 1               |
| 入学先についての相談窓口                                | 0            | 0               |
| 関連機関の一覧について                                 | 0            | 2               |
| 障害のある子どもの将来像について                            | 2            | 0               |
| もっとこういう情報があればよかったと思うこと                      | 4            | 2               |

#### (12) 入学に関する説明会に参加しなかった理由

質問項目（5）にて、「説明会には参加しなかった」「説明会はなかった」「わからない」と回答した保護者に対し、「入学に関する説明会に参加しなかった理由」について、複数選択可能として質問を行い、小学校の保護者 6 人中 6 人、特別支援学校の保護者 10 人中 10 人から回答が得られた。その回答結果を表 4－2－16 に示す。

小学校については、「説明会があることについて、知らなかった（あるいは連絡がなかった）」との回答は 4 件あり、この 4 人の保護者のうち、質問項目（5）において「説明会があったかどうかわからない」と回答した保護者が 3 人、1 人は「説明会はなかった」と回答していた。「説明会以前に入学に関する十分な情報を得ていた」と回答した保護者は 1 人であり、質問項目（5）では「説明会がなかった」と回答していた。さらに、「わからない」と回答した保護者の 1 人は、質問項目（5）では「説明会があったかどうかわからない」と回答していた。

特別支援学校では、「説明会があることについて、知らなかった（あるいは連絡がなかった）」との回答は 4 件あり、その 4 人の保護者のうち、質問項目（5）では「説明会があったかどうかわからない」と回答した保護者が 2 人、「説明会はなかった」と回答した保護者が 2 人であった。「わからない」と回答した保護者の 3 人は、質問項目（5）ではすべて「説明会があったかどうかわからない」と回答していた。その他、自由記述での回答は 2 件あり、「年長時の 1 年間の説明が多く、どれがその説明か覚えていない」と、「小学校と特別支援学校の校長先生と直接会って話しをした」との回答がみられた。これらの結果から、説明会があることを知らない保護者がいるということを踏まえて説明会の開催に関する情報を適切に提供し、徹底的に周知する必要があると考えられる。

**表 4－2－16 「説明会には参加しなかった」「説明会はなかった」「わからない」と回答した方で、入学に関する説明会に参加しなかった理由  
(複数選択可) (件数)**

| 選択項目                             | 小学校<br>(n=6) | 特別支援学校<br>(n=10) |
|----------------------------------|--------------|------------------|
| 必要性を感じなかった                       | 0            | 0                |
| 都合が合わなかった                        | 0            | 1                |
| 説明会以前に入学に関する十分な情報を得ていた           | 1            | 0                |
| 説明会があることについて、知らなかった(あるいは連絡がなかった) | 4            | 4                |
| わからない                            | 1            | 3                |
| その他                              | 0            | 2                |

### (13) 入学先を決める際に何を参考にしたか

質問項目(5)にて、「説明会には参加しなかった」「説明会はなかった」「わからない」と回答した保護者に対し、「入学先を決める際に何を参考にしたか」について、複数選択可能として質問を行い、小学校の保護者6人中6人、特別支援学校の保護者10人中9人から回答が得られた。その回答結果を表4－2－17に示す。

小学校では「家族や知人の意見」が5件で最も多かった。次いで「保健師等、保健センターや療育センターの職員の意見」が3件、「幼稚園・保育所等の先生に聞いて情報を得た」、「教育委員会等の相談窓口相談した」、「医師や心理士など専門家の意見」がそれぞれ2件であった。

特別支援学校では「保健師等、保健センターや療育センターの職員の意見」が5件で最も多く、次いで「医師や心理士など専門家の意見」が3件、「家族や知人の意見」と「幼稚園・保育所等の先生に聞いて情報を得た」がそれぞれ2件であった。

小学校と特別支援学校の保護者に共通しているのは、幼稚園、保育園等の先生や医師等の専門家、保健師等、保健センターや療育センターの職員の意見や情報を参考にしていることである。また、家族や知人の意見も参考にしている件数が多いのは、就学相談に関わるこうした関係者が「家族の意見も参考に就学先を決定して欲しい」と保護者に常に助言している場合が多いことが関係している可能性も考えられる。

なお、小学校の保護者、特別支援学校の保護者ともに、「教育委員会のホームページ等を参考にした」との回答はなかった。

「その他」の自由記述による回答は、小学校から3件、特別支援学校から1件得られた。小学校は、2件が「学校見学」、1件が「発達関連の書籍」、特別支援学校は「子どもの様子を見るため、支援学校での親子学級へ参加」であった。

表 4-2-17 入学先を決める際に何を参考にしたか（複数選択可）（件数）

| 選択項目                     | 小学校<br>(n=6) | 特別支援学校<br>(n=9) |
|--------------------------|--------------|-----------------|
| 幼稚園・保育所等の先生に聞いて情報を得た     | 2            | 2               |
| 教育委員会のホームページ等を参考にした      | 0            | 0               |
| 教育委員会等の相談窓口相談した          | 2            | 1               |
| ネットで情報を得た                | 1            | 1               |
| 医師や心理士など専門家の意見           | 2            | 3               |
| 保健師等、保健センターや療育センターの職員の意見 | 3            | 5               |
| 家族や知人の意見                 | 5            | 2               |
| その他                      | 3            | 1               |

(14) 入学先を決める際、誰とよく相談したか

「入学先を決める際、誰とよく相談したか」について、小学校の保護者 16 人中 16 人、特別支援学校の保護者 16 人中 14 人から回答（3つ選択可）が得られた。その回答結果を表 4-2-18 に示す。なお、「家族」、「専門家（例：医師、心理士、大学教授等）」、「その他」については、記述にて回答を求めた。それぞれ具体的に記述された内容と件数を記す。

表 4-2-18 入学先を決める際、誰とよく相談したか（3つ選択）（件数）

| 選択項目                             | 小学校<br>(n=16)            | 特別支援学校<br>(n=14) |
|----------------------------------|--------------------------|------------------|
| 家族                               | 14                       | 10               |
| 家族（記述(複数可)の内容）                   | 両親7件<br>配偶者 12 件<br>姉妹2件 | 両親6件<br>配偶者7件    |
| 幼稚園・保育所の先生                       | 4                        | 2                |
| 小学校の先生                           | 0                        | 1                |
| 特別支援学校の先生                        | 0                        | 2                |
| 療育センターやデイサービス等の職員                | 8                        | 6                |
| 同じ悩みを持っている保護者や、すでに入学しているお子さんの保護者 | 8                        | 5                |
| 教育委員会                            | 2                        | 1                |
| 専門家(例:医師、心理士、大学教授等)              | 4                        | 1                |
| 専門家(例:医師、心理士、大学教授等)<br>(記述の内容)   | 記述なし                     | 記述なし             |
| 保健師                              | 2                        | 1                |
| その他                              | 0                        | 0                |

小学校では「家族」が最も多く 14 件であった。次いで「同じ悩みを持っている保護者や、すでに入学しているお子さんの保護者」と「療育センターやデイサービス等の職員」が 8 件、「幼稚園・保育所の先生」、「専門家（例：医師、心理士、大学教授等）」が 4 件であった。専門家に関する具体的な記述は見られなかった。

特別支援学校では、「家族」が小学校と同様に最も多く、10件であった。次いで「療育センターやデイサービス等の職員」が6件、「同じ悩みを持っている保護者やすでに入学しているお子さんの保護者」が5件であった。「療育センターやデイサービス等の職員」と「同じ悩みを持っている保護者やすでに入学しているお子さんの保護者」は、小学校、特別支援学校ともに2番目ないし3番目に多い回答であった。

小学校と特別支援学校に在籍する子どもの保護者は、家族に相談するとともに療育センターやデイサービス等の職員や施設等で出会う同じ悩みを持っている保護者や既に入学している子どもの保護者、幼稚園や保育所の先生、専門家（医師や保健師等）に相談している。このことから、家族とともに子どもを取り巻く各関係者が相談相手として重要な役割を果たしていることがうかがわれる。

#### (15) お子さんの在籍を見直したい（すでに変更した）場合、手続きの方法や時期等について知っているか

「お子さんの在籍を見直したい（すでに変更した）場合、手続きの方法や時期等について知っているか」について、小学校の保護者16人中16人、特別支援学校の保護者16人中12人から回答が得られた。その回答結果を表4-2-19に示す。

**表4-2-19 お子さんの在籍を見直したい（すでに変更した）場合、手続きの方法や時期等について知っているか（件数）**

| 選択項目                                             | 小学校<br>(n=16) | 特別支援学校<br>(n=12) |
|--------------------------------------------------|---------------|------------------|
| 学んでいる場所の見直しが可能であることは知っていて、手続き等についても知っている(知っていた)  | 3             | 0                |
| 学んでいる場所の見直しが可能であることは知っているが、手続き等については知らない(知らなかった) | 12            | 7                |
| 学んでいる場所の見直しが可能であることは知らない                         | 1             | 4                |
| その他                                              | 0             | 1                |

小学校では「学んでいる場所の見直しが可能であることは知っているが、手続き等については知らない（知らなかった）」が12件で最も多かった。次いで「学んでいる場所の見直しが可能であることは知っていて、手続き等についても知っている（知っていた）」が3件であった。「学んでいる場所の見直しが可能であることは知らない」は1件であった。小学校の保護者からの回答は、「学んでいる場所の見直しが可能であることは知っていて、手続き等についても知っている（知っていた）」や「学んでいる場所の見直しが可能であることは知っているが、手続き等については知らない（知らなかった）」の件数が多数を占めたことから、説明会や療育施設や学校等の関係者により、学びの場の見直しが可能であることについて知らされていると考えられる。

特別支援学校では、「学んでいる場所の見直しが可能であることは知っているが、手続き等については知らない（知らなかった）」が7件であった。次いで「学んでいる場所の見直しが可能であることは知らない」が4件あり、「学んでいる場所の見直しが可能であることは知っていて、手続き等についても知っている（知っていた）」の回答は

なかった。特別支援学校の保護者も小学校の保護者の場合と同様に、学んでいる場所の見直しが可能であることは知っている場合が多い。その手続きについて、子どもの実態に応じて保護者に就学に関する説明会やホームページ等で情報を提供していく必要があると考えられる。

「その他」の自由記述による回答は、特別支援学校の保護者から1件得られ、「見直しをしたいと思わない」であった。この保護者は、入学してみてよかったと考えていると思われる。

#### (16) 入学後のフォロー内容

「入学後のフォロー内容」について、小学校の保護者16人中16人、特別支援学校の保護者16人中12人から回答（複数選択可）が得られた。その回答結果を表4-2-20に示す。

小学校については、「クラスの担任や担当の先生と、子どもの様子について相談・共有している」が14件で最も多かった。次いで「入学前から相談していた学校の先生と、子どもの様子について相談・共有している」が5件であった。このことから、入学前からの学校の先生との交流や、入学後の学校の教員によるフォローが重要であると考えられる。

「その他」は2件の回答が得られ、具体的には「通常の学級に在籍しているので、特にフォローは受けていない」、「デイサービスの職員の方々からのフォロー」、「学期に一度の支援会議」であった。とりわけ、「通常の学級に在籍しているので、特にフォローは受けていない」という回答から、常日頃から教員による保護者への声掛けをして関係性をよくしておくことが大切であると考えられる。

特別支援学校では、「その他」が6件で、最も多かった。次いで「クラスの担任や担当の先生と、子どもの様子について相談・共有している」が5件、「保健師から連絡があり、子どもの様子について相談・共有している」が1件であった。「入学前から相談していた学校の先生と、子どもの様子について相談・共有している」の回答はなかった。

「その他」の自由記述による回答については、「担任の教員から密に連絡がある」、「入学後、相談する人がいない」、「特段のフォローはない」、「センターの方と相談」、「相談支援専門員との面談」との回答が得られた。「担任の教員から密に連絡がある」という学校と保護者との良好な関係が構築できているケースもあるが、「入学後、相談する人がいない」、「特段のフォローはない」、「特にフォローは受けていない」といった回答もあったことから、常日頃から保護者が気軽に担当教員に相談できる関係を築いておくことや、学校での取組状況をしっかりと共有することが大切であると考えられる。

また、「センターの方と相談」、「相談支援専門員との面談」との回答から、学校のみならず、相談に関わる関係機関によるフォローの状況にも教員は留意する必要があると考えられる。

表 4－2－20 入学後のフォロー内容（複数選択可）（件数）

| 選択項目                                  | 小学校<br>(n=16) | 特別支援学校<br>(n=12) |
|---------------------------------------|---------------|------------------|
| 教育委員会から連絡があり、子どもの様子について相談・共有している      | 0             | 0                |
| 保健師から連絡があり、子どもの様子について相談・共有している        | 0             | 1                |
| 入学前から相談していた学校の先生と、子どもの様子について相談・共有している | 5             | 0                |
| クラスの担任や担当の先生と、子どもの様子について相談・共有している     | 14            | 5                |
| その他                                   | 3             | 6                |

以上ここでは、これまで受けてきた就学に係る教育相談において提供された情報や手続き、時期等の適切さについて明らかにするために、現在小学校や特別支援学校に就学している子どもの保護者を対象とした質問紙調査の結果について示した。

次節では、本調査に参加した保護者に、質問紙調査の結果をもとに就学に係る教育相談を受けた当時の気持ちをより詳細に把握するために、フォーカス・グループ・インタビュー調査を行った結果について述べる。

## 参考文献

厚生労働省（2007）．軽度発達障害に対する気づきと支援のマニュアル．

<https://www.mhlw.go.jp/bunya/kodomo/boshi-hoken07/>（アクセス日、2020-2-1）

（土井幸輝，土屋忠之）

## Ⅲ. 保護者へのフォーカス・グループ・インタビュー調査

### 1. 目的

第4章のⅡにおいて質問紙調査を行った保護者に対して、就学に関する教育相談時期における気持ちを更に詳しく聞き、相談の効果や課題について整理し、よりよい就学に関する教育相談を実施するために必要な要素を提案することを目的としている。

### 2. 方法

#### (1) 調査対象者

本調査の対象者は、第4章のⅡで実施した質問紙調査の協力者32名のうち、フォーカス・グループ・インタビュー調査に協力する同意を得られた者とした。参加人数は、中国地域11名（1組は夫婦で参加）、九州地域6名、東北地域8名（1組は夫婦で参加）、関東甲信越地域4名であった。夫婦で参加した組は夫婦で一つの発言として欲しいと参加者側から要望があったため、27名を対象とした。

参加者27名のうち、子どもが小学校に就学している保護者が16名、特別支援学校に就学している保護者が11名であった。

#### (2) 手続き

本調査において、参加者から話を聞く際には、少人数のグループで行うフォーカス・グループ・インタビュー（以下、FGI）の手法を用いた。実施したFGIでは、各地域において3～6名のグループを設定した。

インタビューの際には、参加者の互いの顔が見え、話したことが聞き取ることができる位置関係で行うこととした。

FGIを運営する当研究所の研究員（以下、司会者）は、参加者の輪の中に入る位置でインタビューを行った。

インタビュー実施時間は約1時間30分で設定した。

FGIは、個別に行うインタビューと比較すると、リラックスした雰囲気を作ることができるだけでなく、集団で行うことによる相乗効果が現れ、幅の広い、より包括的なデータが得られるというメリットがある。反面、特定の参加者の発言量が多くなることもあるなどのデメリットも生じる可能性があるため、FGI実施前、及び実施中において司会者はインタビューの進行をコントロールする必要があることから、インタビュー前に想定される様々な展開に対応するための準備を十分に行うこととした。

#### (3) データ収集方法及び処理方法

FGIを実施した期間は、第4章のⅡで実施した質問紙調査の期間と同じ2019年10月～12月に設定した。

FGIを実施するに当たり、実施場所へ当研究所の研究員が訪問し、直接話を聞き、同時に記録を残した。FGIを実施する時には、インタビュー記録を補完するために

I Cレコーダーで参加者が話した内容を録音した。インタビュー内容のテキスト化終了後には、録音したデータを消去した。

テキスト化した記録は小学校に就学した子どもの保護者のグループ（以下、小学校G）と特別支援学校に就学した子どもの保護者のグループ（以下、特別支援学校G）に整理し、分析した。

#### （４）F G I の調査項目

F G I では、以下の質問項目で行った。質問１～８は主に就学に係る教育相談に対する気持ち、質問９～１５は就学した後の就学に係る教育相談や、学校生活に対する気持ちを尋ねるものとした。

##### 【就学前】

- １．お子様の入学先を決める相談を始められた時の、お気持ちはどうでしたか？
- ２．入学に関する相談をされてこられたと思いますが、その相談は、どうでしたか？（内容の適切さ、わかりにくさ、担当者との信頼関係、忙しさ、障害受容・・・）
- ３．入学に関する相談で、これはよかったなと感じたことは何でしたか？
- ４．逆に、これはよくなかった、嫌だった、面倒だったことは何でしたか？
- ５．入学前に、知っておいた方がいい、やっておいた方がいいと感じることは何ですか？
- ６．今のお子様の在籍校に決めた理由は何ですか？
- ７．入学先を決める時に、一番大変だったことは何ですか？
- ８．一番心の支えになったこと、前向きにしてくれたことは何ですか？

##### 【就学後】

- ９．実際に入学してみて、どうですか？相談時に受けた説明やイメージと違うところは、どこですか？入学前の気持ちとの変化はありますか？
- １０．入学前にかかっていた相談機関（教育委員会等）から、入学後もこんな支援があったらうれしいというのがありますか？
- １１．学校にお願いしたい支援内容はどんなことがありますか？
- １２．これから小学校へ入学する子どもをもつ保護者の方に、先輩保護者としてアドバイスするとすれば、どのようなことを伝えたいですか？
- １３．これから、中学校への入学、あるいはお子様の成長に合わせて学ぶ場所を見直すこともあるかと思いますが、それらに向けて、これからの入学に関する相談に望むことはなんですか？（ほしい情報、ほしい支援内容・・・）
- １４．入学してみて、お子様が成長したと感じるところはどこですか？それはなぜだと思いませんか？
- １５．今、みなさんにとって一番心の支えになっているのは何ですか？

#### （５）倫理的配慮

参加者へのF G Iを開始するに当たり、当研究所の倫理審査委員会において承認を得た。インタビュー参加者及び療育施設等代表者あてに、実施に関わる依頼文書を送

付した。また、参加者の居住自治体の教育委員会教育長あてにインタビュー実施に関する了知文を送付した。その際、個人情報保護のため、インタビュー参加者の氏名、住所等は明示しなかった。

F G I 開始前に、書面及び口頭で、研究の目的、手続きに関する説明を行った。併せて、本調査への協力は任意であること、本調査への協力を事前・途中・事後において辞退しても不利益を被ることはないこと、結果の公開に際して参加者及び子どもの氏名、住所、在籍校は一切公表しないこと、調査に関わるデータは流出などのないよう厳重に管理することについて説明を行った。これらについて参加者から同意を得たうえで実施した。

なお、インタビュー時の録音データは、内容のテキスト化終了後に消去を行うことを参加者に約束した。

### 3. 結果と小考察

本項では、F G I で得られた結果及びそれに対する小考察を行う。

#### (1) 保護者の就学に係る教育相談時の気持ち

質問1～4において、就学に係る教育相談を受けたうえで保護者が感じたことを尋ねた。質問1「お子様の入学先を決める相談を始められた時の、お気持ちはどうでしたか？」では、表4-3-1のような回答（要旨）が得られた。なお、表4-3-2は参加者から得られた発言の抜粋である。

小学校Gの方が特に「不安」というキーワードが多く、ネガティブにとらえられる発言が比較的多かった。それと比較して、特別支援学校Gの方が、「迷いはない」や「うれしい」などポジティブにとらえられるような発言が多かった。これは、小学校Gの保護者が、就学に向けての準備の期間に気持ちの揺れ動きが起こりやすいことを示唆している。特別支援学校Gの子どもは障害の程度が重いため、障害に対する受容が早い段階から行われ、就学先の選択肢を特別支援学校に定めていた保護者が多いことが発言からうかがえる。これと比較して、小学校Gは障害の程度の軽さゆえ、子どもの特性をどう捉えるべきかという迷いや、これから成長する（変わる）のではないかと言う気持ちがあったため、我が子の学びの場の選択肢に幅があり、学びの場を何処にするか迷いが生じていることが一因として考えられる。

特別支援学校Gの保護者は、「迷いはない」と言う発言は、我が子の実態を早い段階から掴んでいることや、学びの場の選択肢が多くなかったという要因から発せられたものであるとも考えられる。こういった背景があることが、相談担当者の対応の遅さを感じる要因につながったことも考えられる。

これに関連した発言として、就学先決定の時期が早いと感じたというものが小学校Gと特別支援学校Gの両方で見られた。就学先を考え始めてから、決定までの期間が短いことがそのように感じる一つの要因であると考えられる。

表 4-3-1 就学に係る教育相談を始めたときの気持ち

|          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|----------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 小学校 G    | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 学校生活になじめるか不安だった (3)</li> <li>● 就学先決定の時期が早いと思った (2)</li> <li>○ 特別支援学級でどのように成長していくのだろうか</li> <li>○ 迷いはなかった</li> <li>● 就学する場に迷いがあった</li> <li>○ 見学に行ったので余裕をもって就学できた</li> <li>● 就学先のイメージがわからなかった</li> <li>● 学校でどのような支援が受けられるのか不安があった</li> <li>● 学校の設備や介助に不安があった</li> <li>● 知識もなく仕事をしていて相談の時間が取れなかった</li> <li>● 就学先決定に不安があった</li> <li>○ 見学に行ったので安心した</li> <li>○ 友達に恵まれていた。</li> <li>● ついていけるか不安はあった</li> </ul>    |
| 特別支援学校 G | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 対応が遅いなど感じた (2)</li> <li>○ いよいよという感じ</li> <li>○ ちゃんと決めないといけない</li> <li>○ そういう時期が来たのか</li> <li>○ 就学先を決めるのが速いと感じた</li> <li>● 悩むことはなかったが、どのように動いていいのかわからなかった</li> <li>● どこに相談したらいいかわからなかった</li> <li>● 就学先を迷っていた</li> <li>○ 市の人が進めた</li> <li>○ 就学先を決めていた</li> <li>● 特別支援学級は厳しいと思っていた</li> <li>○ 先のことを考えて特別支援学校に決めた</li> <li>○ 迷いはなかった</li> <li>○ うれしい気持ちだった</li> <li>○ ドキドキしていた</li> <li>○ 自立させたいと思った</li> </ul> |

\* 各発言の文脈から判断し、文頭の「○」は概ね肯定的（ポジティブ）な意見か、どちらでもないと受け取れる意見、「●」は否定的（ネガティブ）な意見として区別した。

表 4-3-2 就学相談を始めたときの気持ちに関する発言例（抜粋）

|                   |                                                                                                          |
|-------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 小学校 G<br>(特別支援学級) | ○ 特別支援学級で本人のペースでやってくれればいいなと思いながらも、 <u>学校生活や他の友達だったり、なじんでくれるかなという不安がありました。</u>                            |
| 小学校 G<br>(通常の学級)  | ○ 5 歳ごろから考えないといけないなと思いつつ、 <u>ちょっと早いというか、心の準備ができてなくて、でももうそろそろ決めていかないといけないという時期にきて、ちょっと自分自身においついていかない。</u> |
| 小学校 G<br>(通級指導教室) | ○ 小学校の設備や介助に不安があった。双子なのでできるだけ一緒に地域の小学校へ通っていければという願いがあった。 <u>やっていけるのか不安があった。</u>                          |

|          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|----------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 特別支援学校 G | ○いよいよだなという気持ち。幼稚園 4 年間通ってて、ある意味、ここがゴールという感じがあったので、やっとという感じがあった。                                                                                                                                                                                                                                                |
| 特別支援学校 G | ○私の子どもは言葉も話せませんし、歩けませんので、その辺は覚悟はきまっていたので、どこにするかというあれはなく、はい、そうですね。ようやく小学校に入れるという、進める学校があるんだなというのだなという気持ちだったので、 <u>特に迷いはなかった</u> ので、はい。                                                                                                                                                                          |
| 特別支援学校 G | ○（略）市からのこういうふうにしてくださいみたいなのが、 <u>対応が遅い</u> なと思いました。4 月じゃなくて、もっと 2 年前とかにしてくれたら、うーんと、例えば、支援、まあ、自分から行く人もいるみたいですけど、やっぱり就学前で年長さん、年中さんの時期はぜんぜんそんなこと考えてなくて、どういう風なのかもわからなかったもので、今思うと年中のころからやりたかったなっていう、就学を考えたかっていうのがあって、支援学級の方の見学も支援学校の方の見学も、支援学級の見学なんて 11 月ぐらいだったので、12 月までに決めなければいけないのに、11 月に見学って、それって遅いんじゃないかなと思いました。 |

※上記は保護者の発言をそのまま記述している。

質問 2 「入学に関する相談をされてこられたと思いますが、その相談は、どうでしたか？」では、実際に就学相談を受けたときの内容の適切さや内容の分かりやすさについて尋ねた。回答の要旨については表 4-3-3 の通りである。なお、表 4-3-4 は参加者から得られた発言の抜粋である。

表 4-3-3 就学相談を実際に受けて感じたこと

|          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|----------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 小学校 G    | <ul style="list-style-type: none"> <li>○療育機関の相談に助けられた</li> <li>○先輩ママの話を事前に聞いていたので相談前に意思は決まっていた</li> <li>●保健師さんがあいまいな返事だった</li> <li>●親が決めるような言い方だった</li> <li>●雰囲気が固い・怖いところでやるんだと感じた</li> <li>○普段の様子を聞かれ希望を聞かれた</li> <li>●教育委員会側の人が多く圧倒された</li> <li>○親の意見を尊重してくれる感じだった</li> <li>○設備の関係があったので早いうちに相談があってよかった</li> <li>○手厚く相談に乗ってくれたのはありがたかった</li> <li>○就学先の校長に理解があった</li> <li>○支援会議のメンバーが信頼できる方ばかりだったので安心した</li> <li>●いろいろ説明されるから悩む</li> <li>○見学をして子どもが楽しそうだったので安心した</li> <li>○親類がいたので決めた</li> </ul> |
| 特別支援学校 G | <ul style="list-style-type: none"> <li>●対応が遅いと感じた（2）</li> <li>●話を聞くだけの場だった</li> <li>●自分の子が特別支援学校に行くことが悲しかった</li> <li>●面接みたいな雰囲気だった</li> <li>○お任せしていた</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |

○療育機関の職員を信頼していた（２）

○担当の方に勧めてもらった

\*各発言の文脈から判断し、文頭の「○」は概ね肯定的（ポジティブ）な意見か、どちらでもないと受け取れる意見、「●」は否定的（ネガティブ）な意見として区別した。

就学に関する相談について、教育委員会の相談担当者に対する信頼が高かったという意見がある反面、「あいまい」「相談ではなく、既に就学先が決まっているかのような展開」「雰囲気悪さ」について小学校Gと特別支援学校Gの両方で発言があった。

小学校Gでは、「いろいろ説明されるから悩む」という発言があった。多くの選択肢を示されることは、保護者が考える助けになる反面、人によっては困惑することもうかがわれる。保護者に対する情報の提供の仕方（保護者の希望を聞きながら、段階を追って情報を提供するなど）にも工夫が必要であると考えられる。

また、地域によって異なるが、就学に係る教育相談の場において、保護者を配慮しない事務的で面接のような雰囲気を出す教育委員会には、保護者にとってストレスに感じるようである。

相談の仕方の詳細（同席者はどのような役職で、何人いるのか。どのような流れで進めるのか等）について事前に説明、もしくは何らかの形で分かるようにしておくことでストレスの軽減が図られるのではないかと考えられる。

今回のFGIにおいて、小学校Gで唯一、「専門家の意見が分かれたのが困った」という発言があった。保護者は、相談担当者から多くの情報を聞くことで迷いが生じることもあると前述したが、併せて、専門的知識を有していると考えられる複数の者から、異なった意見を聞くことは更に困惑させることになる。就学に関する基準については、相談を担当する者が共通認識をすることは必要であると考えられる。

表 4-3-4 就学相談を受けて感じたことの発言例（抜粋）

|                  |                                                                                                                                                                                                           |
|------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 小学校G<br>(特別支援学級) | ○自分は支援級と決めてたんですけど、そこでもうちょっと選択肢をいただけるのかな、背中を押していただいたり、相談的なことができるかなと思ったら、もうお母さん次第です、お家の方の次第ですっていう言葉しかもらわなかった。あれ？自分で決めるしかないんだっていうのと、もしかしたら普通級にいけるのかなという期待もあったんですけど、やっぱり自分で決めた方に行くしかないかなって。行っただけどスッキリしなかったです。 |
| 小学校G<br>(特別支援学級) | ○就学前の相談が最初の接点のような感じで、身近にという感じは感じなかったです。相談というか、机の前に座られている感じが、就職？（中略）みたいな感じで、言われていることに、はいという感じで受け止めて、印象がそうだったんです。こちらから話をしても人数的にも圧倒されますし、なんとなく圧がかかるじゃないけど。                                                   |
| 小学校G<br>(特別支援学級) | ○相談するときに、一から説明するとか、市の方だったり、学校の先生だったり、いろいろ話したんですけど、 <u>どっちの面も話してくれるから悩む</u> というか。                                                                                                                          |

|                   |                                                                                                                                                                                      |
|-------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 小学校 G<br>(特別支援学級) | ○教育委員会の教育相談員と園の主任の先生から話を聞いた。(中略)療育支援センターのセンター長からも話を聞いたが、通常学級でやっていけるのか <u>専門家の方の意見が分かれたのは困った。</u> (略)                                                                                 |
| 特別支援学校 G          | ○うちは、もう支援学校だなどこっちも教育委員会も思っていたので、教育委員会の方も資料をみて、支援学校ですね、お互いにそうですねみたいな感じだった。不安だったりもうちょっと知りたかったのにといい思いはしなかったんです。でも、相談ってついてたけど、 <u>市役所とかの窓口で話すつもりで行ったのが、やっぱり面接みたいな雰囲気だったな</u> という印象はあります。 |
| 特別支援学校 G          | ○障害が重度さんだったので、支援学校しかないという思いはあったけど、 <u>やっぱり親として、悲しかったです。みんなお友達は普通の学校に行くのに、今も泣きそう、なんでうちの子だけ、支援学校に行くんだろうというのがすごいあって。6年経っても今でも涙が出るんですよ。</u> (略)                                          |

※上記は保護者の発言をそのまま記述している。

質問 3 において、就学相談でよかったと感じたこと、質問 4 で嫌だった、面倒だったと感じたことを尋ねた。各質問の回答の要旨は表 4-3-5、表 4-3-6 に示した。なお、表 4-3-7 及び表 4-3-8 は、参加者から得られた発言の抜粋である。

表 4-3-5 就学相談でよかったと感じたこと

|          |                                                                                                                                                                                                    |
|----------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 小学校 G    | ○見学の機会があったこと (3)<br>○療育施設の職員に相談できたこと (2)<br>○(相談会の待合の場において) 同じ思いを持つ人がこんなにいるんだと思った<br>○保健師に思ったことを話せた<br>○学校の先生が入学前から心配してくれたこと<br>○放課後デイのことも一緒に聞いたこと<br>○情報があること。ただし分からないこともあった<br>○療育施設でほかのママと話せたこと |
| 特別支援学校 G | ○手順を説明してくれたこと (3)<br>○担任の印象がよかった<br>○療育施設の職員<br>○相談担当者の対応がよかった<br>○子どもの様子をきちんと見てくれた<br>○支援学校の教育相談の際に細かく話をしてもらった<br>○就学する予定の学校の先生方が優しかった<br>○情報収集でよい学校ということだった                                      |

\*各発言の文脈から判断し、文頭の「○」は概ね肯定的(ポジティブ)な意見か、どちらでもないと受け取れる意見、「●」は否定的(ネガティブ)な意見として区別した。

表 4-3-6 就学相談で嫌だったこと、面倒だったこと

|          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|----------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 小学校 G    | <ul style="list-style-type: none"> <li>●就学先が決められていた</li> <li>●就学先を決めるまでの期間が短い</li> <li>●相談が淡々としていた</li> <li>●親が決めるように言われたこと</li> <li>●断定で返された</li> <li>●機械的な決定をされたこと</li> <li>●知能テストの結果で決めつけられたこと</li> <li>●同じような子どもを持つ親がどのように動いているか分からなかった</li> <li>●行くところで一から説明すること</li> <li>●管理職の理解がなかった</li> <li>●相談の度に子どもの障害を認めなければいけないこと</li> </ul> |
| 特別支援学校 G | <ul style="list-style-type: none"> <li>○気になることはない（４）</li> <li>●相談会での内容がはっきりしないところ</li> <li>●何度も足を運ぶことが面倒</li> <li>●対応の遅さ</li> <li>●平日に時間を指定されたこと</li> <li>●思っていることのニュアンスが伝わらない</li> </ul>                                                                                                                                                 |

※各発言の文脈から判断し、文頭の「○」は概ね肯定的（ポジティブ）な意見か、どちらでもないと受け取れる意見、「●」は否定的（ネガティブ）な意見として区別した。

就学相談でよかったことに関しては、学校の見学ができたことや、相談することによって就学する学校に関する情報が得られたこと、就学相談担当者に対する印象がよかったということが挙げられる。特に、療育機関の職員との相談については、信頼も置き、就学先決定のきっかけになっているようである。教育委員会が催す相談会において、就学までの手順を教えてもらえることがよかったと話す保護者がいた。

このようなことから、相談時の保護者の心理的な安定も提供する療育機関と、就学先決定のプロセスに関する情報を提供する教育委員会が、より密接に連携を図ることによって、保護者の気持ちに寄り添いながら、保護者が納得できるよりよい就学に係る教育相談を行うことができるのではないかと推察される。

嫌だったことについては、特別支援学校 G では気になることはなかったという意見が多かったことに比較して、小学校 G では、嫌だと感じるものが多く示された。

具体的には、就学先決定のプロセスにおいて、すでに就学先が決められていたと感じたことや、機械的であること、知能テストで決められていると感じたという発言が見られた。この発言からは、平成 25 年の学校教育法施行令の一部改正の基本的な前提である、保護者の意見を最大限尊重するという面に関する課題がうかがわれる。

療育機関に通っていなかったと思われる保護者からは、他の保護者がどのように就学先決定のために動いていたかが分からなかったという発言があった。このことから、療育機関等に通っていないと保護者には情報が入りにくい状況であることがうかがえる。

表 4-3-7 就学相談でよかったことの発言例（抜粋）

|                   |                                                                                                                                     |
|-------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 小学校 G<br>（特別支援学級） | ○決定に至る過程で、 <u>小学校へ見学ができたことがよかった</u> 。聴覚過敏があるので、静かな教室があることがわかってよかった。                                                                 |
| 小学校 G<br>（通級指導教室） | ○◇◇（療育施設名）ですね。やっぱお母さん方の意見だったり△△先生（施設職員）とか相談したりとか。姉弟子がいるお母さん先輩ママがいらっしゃるので、いろんな所の学校の状況だったり聞ける。                                        |
| 小学校 G<br>（特別支援学級） | ○（相談の順番を）待っている <u>他の保護者をみて、同じ思いで待っている</u> らっしゃるんだなと思った。待っている人を見ると、こんなにいるんだなと思った。                                                    |
| 小学校 G<br>（特別支援学級） | ○相談は、主にここ（療育施設）の先生が一番多かったんじゃないかと思うんですけど、やっぱり幼稚園よりも、よくみてもらったという感じがあったので、 <u>信頼してました</u> 。                                            |
| 特別支援学校 G          | ○（略）役所の人に来て、 <u>手順を説明してくれたのはよかったかな</u> と思う。                                                                                         |
| 特別支援学校 G          | ○先生の第一印象ですね。もしそこで支援学校の先生のイメージが悪かったら、タイプじゃない男性だったりしたり、こんな先生？ でも、タイプだった。話しやすい、相談しやすい、味方になってくれやすいオーラがある先生が支援学校の先生でおっちゃったから行っちゃったかな。（略） |

※上記は保護者の発言をそのまま記述している。

表 4-3-8 就学相談で嫌だったことの発言例（抜粋）

|                   |                                                                                                                                                |
|-------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 小学校 G<br>（特別支援学級） | ○相談っていう程度で行ってるのに、 <u>断定で返されたこと</u> ですかね。がーんって殴られた感じでしたね。全部親なんだって。石をかかえて帰ってきたみたいな気がしました。                                                        |
| 小学校 G<br>（特別支援学級） | ○知能テストは子どもの一部を評価するものであるにもかかわらず、 <u>知能テストに基づいて決めつけて言われたことがきつく、つらかった</u> 。                                                                       |
| 小学校 G<br>（特別支援学級） | ○子どものことをわかっている親の立場からすると、肢体不自由だから教育委員会から就学先を肢体不自由校というように <u>機械的な決定をされたことには嫌な気持ちになった</u> 。（略）                                                    |
| 小学校 G<br>（通級指導教室） | ○嫌だって思ったのは、 <u>1回子どもの障害を認めなければいけない</u> 自分がいるっていうのがなんか辛いな。A（子どもの名）はAなのになんでよその子と違うって言うのを1回1回認めなければいけないっていうのがやっぱり辛いな。                             |
| 小学校 G<br>（通常の学級）  | ○学校見学に行った時に、校長先生の対応だとか教頭先生があんまり理解されていない。話してもあまり通じていない。支援学級の先生はもちろんお勉強された先生なので。でも上の先生は何か「私は会議がある」とか言われて抜けたりとかして、あまり話を聞いてもって言う話を聞いたりしてて。温度差を感じる。 |
| 特別支援学校 G          | ○ <u>ありません</u> 。あと、先輩ママさんがいたので、そちらの情報も頂いて、一人一人見てくれるよ、ということで、なのであまり悪いほうは、ぜんぜん考えませんでした。                                                          |

|          |                                                                          |
|----------|--------------------------------------------------------------------------|
| 特別支援学校 G | ○面倒ってというのは感じたことは、やっぱり、平日に時間を取られたり、この日の何時って指定されるとそれに合わせないといけないなって。大変だなって。 |
|----------|--------------------------------------------------------------------------|

※上記は保護者の発言をそのまま記述している。

## （２）就学先を決定する際の気持ち

就学先を決定する際の気持ちを質問 6「今のお子様の在籍校に決めた理由は何ですか？」と尋ね、その回答の要旨を表 4-3-9 に示した。表 4-3-10 は参加者から得られた発言の抜粋である。

表 4-3-9 現在の就学先決定の理由

|          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|----------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 小学校 G    | <input type="radio"/> 校区内（４）<br><input type="radio"/> 歩いて通える<br><input type="radio"/> 家が近い<br><input type="radio"/> 地元の小学校<br><input type="radio"/> 兄弟が通っている（２）<br><input type="radio"/> 友達が進学する<br><input checked="" type="radio"/> 通常学級は無理と思った<br><input checked="" type="radio"/> 消去法<br><input type="radio"/> 本人の意思                          |
| 特別支援学校 G | <input type="radio"/> 支援が手厚い（２）<br><input type="radio"/> 他を考えてなかった（２）<br><input type="radio"/> 自立を目指してほしいという願い<br><input type="radio"/> 自立できるように<br><input checked="" type="radio"/> 選択肢がない<br><input checked="" type="radio"/> 消去法<br><input type="radio"/> 考えていた特別支援学校で十分だった<br><input type="radio"/> 親が手助けするため<br><input type="radio"/> 分からない |

\*各発言の文脈から判断し、文頭の「○」は概ね肯定的（ポジティブ）な意見か、どちらでもないと受け取れる意見、「●」は否定的（ネガティブ）な意見として区別した。

小学校 G では、就学先決定の理由が居住地で設定されている校区内であることが最も多い理由であった。幼稚園・保育所時代の友達との関係を途切れさせたくないという保護者の願いや、我が子を地域で育てたいという願いがあるようである。反面、特別支援学校 G は、当該学校で受けられる指導・支援に対する期待が大きな理由であった。特に自立を目指すことを目標に掲げている保護者もいた。また、子どもの実態から、選択肢が特別支援学校しかないということも挙げられていた。

前述の通り、小学校 G の就学先決定の理由が居住地にある学校であることが多かったが、参加者の中には、居住地の校区とは異なる学校に就学させたいと考えていた保護者もいた。近隣の学校区が特別支援教育に関する専門性が高いということや、施設・設備が整っているということが理由として考えられる。インタビュー以外の場面において、保護者の中には、「行きたい学校に行けるようになればよいのに、なぜできない

のか」という疑問を発することも見られた。

表 4-3-10 就学先決定の理由に関する発言例（抜粋）

|                   |                                                                                                        |
|-------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 小学校 G<br>（特別支援学級） | ○私は、何も迷わず、 <u>校区内の近いところ</u> っていう、昔ながらの地元に行くみたいな感覚で選びました。                                               |
| 小学校 G<br>（通級指導教室） | ○ <u>家から近くて兄弟と同じ小学校</u> で何とか受け入れてくれそうだったから。                                                            |
| 小学校 G<br>（通常の学級）  | ○ <u>本人が普通がいい</u> と言っていた。                                                                              |
| 特別支援学校 G          | ○ <u>支援をしてくれる人が手厚いところ</u> がそこだったから。<br>○消去法っていうと聞こえが悪いですけど、普通級は厳しいね、支援級も厳しいね、じゃ支援学校だね、で頑張ってもらおうと思いました。 |

※上記は保護者の発言をそのまま記述している。

質問 7「入学先を決める時に、一番大変だったこと」は何かということを尋ねた際の結果は表 4-3-11 の通りである。表 4-3-12 は参加者から得られた発言の抜粋である。

表 4-3-11 入学先決定の際に大変だったこと

|          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|----------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 小学校 G    | <ul style="list-style-type: none"> <li>●校区外就学の際の手続き（2）</li> <li>●就学先決定の判断（2）</li> <li>●就学先決定までの期間が短いこと</li> <li>●学校側からの要求が多い</li> <li>●決定した就学先が本当によかったかどうか</li> <li>●聞いた話が最初と異なること（就学先決定日）</li> <li>●設備整備を依頼すること</li> <li>●周囲の受入れに関する不安</li> <li>●行きたい学校にいけないこと</li> <li>●子どもがなじめるかどうか</li> </ul> |
| 特別支援学校 G | <ul style="list-style-type: none"> <li>●登下校への対応を考えること（4）</li> <li>○なかった（4）</li> <li>●放課後のことも考えないといけないこと（3）</li> <li>●他の就学先を決められたこと</li> <li>●理想とのギャップ</li> <li>●家族への説明</li> </ul>                                                                                                                 |

\*各発言の文脈から判断し、文頭の「○」は概ね肯定的（ポジティブ）な意見か、どちらでもないと受け取れる意見、「●」は否定的（ネガティブ）な意見として区別した。

質問 7「就学先決定で大変だったことは何か」という回答においては、就学先決定をしたその判断が、正しかったのかどうかという不安を感じているという発言が小学校 G のみで聞かれた。今回参加した特別支援学校 G の保護者からはそのような発言は聞かれなかった。これは、おそらく早い段階から我が子の障害の状態を把握し、「自立

を目指す」という明確な目標をもてたことが、就学先に対する不安を和らげた一因とも考えられる。

特別支援学校Gでは、入学先決定の際に大変だったこととして、学校における学びに関することよりも、登下校の方法や、放課後デイサービスなど、入学後の放課後の過ごし方に関することが挙げられた。

特別支援学校Gの場合、すでに学びの場として特別支援学校を選択することに対する迷いはないことから、具体的に就学してからの生活の在り方について考えることの方が大変であると考えていることがうかがえる。特に登下校については、学校が居住地から遠距離である場合もあり、通学バスに乗車させる時間や、乗車させる場所まで送迎しなくてはならないことに負担感を感じることも推測できる。

表 4-3-12 就学先決定で大変だったことの発言例（抜粋）

|                  |                                                                                                                                                                                                                                                  |
|------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 小学校G<br>(通常の学級)  | ○一番本人が普通学級にいたいと言って今もいさせているけど、いろいろ大変なことが多すぎて、 <u>これでよかったのかな</u> ということをいつも思っています。                                                                                                                                                                  |
| 小学校G<br>(特別支援学級) | ○特別支援学級に入級するか通常学級にするかの <u>判断が難しかった。</u>                                                                                                                                                                                                          |
| 小学校G<br>(通級指導教室) | ○ <u>バリアフリーの対応をお願いすることが大変だった。</u>                                                                                                                                                                                                                |
| 小学校G<br>(特別支援学級) | ○最終決定を 11 月の下旬ごろに決めたらいいですよって教育委員会の方に言われて、(中略) 主人と毎晩毎晩、どうしようどうしようって言っている中、10 月頃に教育委員会から電話がきて、「どうしますか？どう決めますか？」って昼間何回も電話いただいた。(中略) 会議にかけないといけなくて、そろそろ決めてもらわないと困りますとか、教育委員会の事情をものすごく言われた。だったらその <u>不切を言っちゃだめなんじゃないかって私としては思って、焦らされた</u> というのがありました。 |
| 特別支援学校G          | ○ <u>自分の理想とのギャップ</u> ですね、夢とか。                                                                                                                                                                                                                    |
| 特別支援学校G          | ○学校から 18 キロ離れている。通学バスがあるので、3 年前からスクールバスがあるので、大分ましになったんですけど、スクールバス乗り場にも 10 分かけて送りに行くというのはあります。                                                                                                                                                    |
| 特別支援学校G          | ○私はここに通うって決めてたので、一番覚えているのは、登校時間と下校時間を聞いて、 <u>フルタイムで仕事をしているので、朝と帰りどうしようって、それがすごく大変で、そっからどっかに預ける</u> ところを探さなきゃいけなくて、それで、いろいろ施設をまわったりして、それが一番大変だった。学校決めるよりも、時間はやっぱり普通の小学校とは違うので。                                                                    |

※上記は保護者の発言をそのまま記述している。

### （３）これから就学する保護者へのアドバイス

これから就学に関する相談等を行う保護者に対して、先輩保護者として、入学前に知っておいた方がいい、やっておいた方がいいとアドバイスするとしたらどのようなことであるかについて、質問５として尋ねた。その結果は表４-３-13 に示した通りである。

また、質問１２として、これから小学校へ入学する子どもをもつ保護者に対して、入学する前に行うとよいこと等に関して、先輩保護者としてアドバイスしたいことを尋ねた。結果は表４-３-14 の通りである。表４-３-15 及び表４-３-16 は参加者から得られた発言の抜粋である。これらの質問は、就学先を考えた時期を振り返り、何が一番必要だったかに関する保護者の認識を問うための設問であった。

表４-３-13 入学前に知っておいたほうがよいこと、やっておいたほうがよいこと

|          |                                                  |
|----------|--------------------------------------------------|
| 小学校 G    | <input type="radio"/> 学校見学（６）                    |
|          | <input type="radio"/> 情報収集（２）                    |
|          | <input type="radio"/> コーディネーターと話をすること            |
|          | <input type="radio"/> 入学前に特別支援学級の保護者とつながりを持てるとよい |
|          | <input type="radio"/> 普段の学校の様子を知ること              |
|          | <input type="radio"/> 療育施設等早めに知ること               |
|          | <input type="radio"/> とりあえず行かせてみるのは              |
| 特別支援学校 G | <input type="radio"/> 学校見学（３）                    |
|          | <input type="radio"/> 中学校や就労のことも視野に入れる           |
|          | <input type="radio"/> 療育は絶対必要                    |
|          | <input type="radio"/> お任せだった                     |
|          | <input type="radio"/> 保護者で集まって情報交換               |
|          | <input type="radio"/> スケジュールなど学校の情報              |
|          | <input checked="" type="radio"/> 行政があまり寄り添っていない  |

\*各発言の文脈から判断し、文頭の「○」は概ね肯定的（ポジティブ）な意見か、どちらでもないと受け取れる意見、「●」は否定的（ネガティブ）な意見として区別した。

表４-３-14 これから入学する児童の保護者へのアドバイス

|       |                                            |
|-------|--------------------------------------------|
| 小学校 G | <input type="radio"/> 親が頑張る                |
|       | <input type="radio"/> 親が安定すること             |
|       | <input type="radio"/> 思いつかない・わからない（２）      |
|       | <input checked="" type="radio"/> 学校に求めないこと |
|       | <input type="radio"/> 相談相手を見つけること          |
|       | <input type="radio"/> コーディネーターとのコネクション     |
|       | <input type="radio"/> いろいろな機関で情報収集すること     |
|       | <input type="radio"/> 学校の情報                |
|       | <input type="radio"/> 行動すること               |
|       | <input type="radio"/> わが子の障害理解             |
|       | <input type="radio"/> 家族の協力                |
|       | <input type="radio"/> 父親の協力                |

|          |                               |
|----------|-------------------------------|
| 特別支援学校 G | ○学校見学（２）                      |
|          | ○情報収集（２）                      |
|          | ○早めに手続きをすること                  |
|          | ○細かいことも聞くこと                   |
|          | ○学校見学するときにその後のこともちゃんと想像しながら見る |
|          | こと                            |
|          | ○家と学校でやり方を変えないこと              |
|          | ○父親も参加すること                    |
|          | ○子どものありのまま受け止めること             |
|          | ○情報共有                         |
|          | ○特にない                         |

\*各発言の文脈から判断し、文頭の「○」は概ね肯定的（ポジティブ）な意見か、どちらでもないと受け取れる意見、「●」は否定的（ネガティブ）な意見として区別した。

就学前にやっておいたほうがよいことについては、小学校G、特別支援学校Gとも学校見学及び事前の情報交換・収集に関する発言が多かった。就学前の段階で小学校に通っている児童の保護者や、小学校の特別支援教育コーディネーターとコンタクトを取っておくことなど、今後お世話になるだろう関係者とコネクションを形成しておくことを勧める保護者もいた。また、学校の見学は普段の授業の様子を見るとよいという示唆も発言の中にはあった。就学に関する「適度な量」の情報が、保護者にとっては安心感を得られる要因の一つであると考えられる。表4-3-3に「いろいろ説明されるから悩む」という意見もあるように、多すぎる情報はかえって保護者を迷わせる要因になり得るからである。対象の保護者にとって「適度な量」の情報がどの程度であるのかについては、相談担当者が、当該児童の実態を適切に把握し、当該保護者とのやりとりを行い、信頼関係を紡いでいく中で見極める必要がある。

小学校Gにおいて、「わが子の障害理解」という発言があった。インタビュー中において、保護者同士で議論が起こった内容でもあった。議論において一部の保護者の中には、我が子に対して、実態を超えて無理をさせないようにしたいという思いがあることや、他の子どもが、困っている様子を見て、その子の保護者が自分の子どもの実態をきちんと把握していないのではないかという心配から発言された方もいた。

就学時健診等において、支援が必要な対象に挙がることなく小学校に入学した子どもが、小学校において行動の問題を起こすことがあるという事例が一部の保護者によって語られた。そのような子どもの保護者は、我が子に障害があるかもしれないということを気付き、理解するべきであるということであった。保護者が我が子の障害理解をすることで、早い段階での支援を受けることができ、子ども自身も困ることがないのではないかという意見が挙がった。

このことから、小学校への就学に向けて、どの保護者に対しても、障害の有無に関わらず我が子の実態をしっかりと把握した上で、適切な対応が必要であるという、子育てに関する啓発をしていくことも就学相談を行う上では大事な視点ではないかと考えられる。

この質問の回答の中で、「学校に期待しないこと」ということを挙げた保護者が1名

いた。就学に係る教育相談開始時から、教育委員会や学校に対する印象が非常に悪かったことを当該保護者は語った。教育委員会や学校関係者との関係が悪くなったとしても、校区にある当該学校しか選択肢がないという状況での発言であった。

就学を検討する時期は、保護者にとっては非常に敏感になる時であり、相談担当者は、相談を適切に行う知識や技能を身に付ける必要がある。特に、相談に来た保護者を気持ちよく迎える等のホスピタリティの精神や、保護者の話に傾聴し、受容するなどの、いわゆるカウンセリング・マインド\*を有していることは必須であると考えられる。

\*カウンセリング・マインドは、「カウンセラーがクライアントに対して、あたたかい信頼関係に満ちた人間関係をつくる姿勢、態度、心構え」(小林, 2004) のことである。

表 4-3-15 入学前に知っておいたほうがよいこと、  
やっておいたほうがよいことに関する発言例（抜粋）

|                   |                                                                                                                                                          |
|-------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 小学校 G<br>(特別支援学級) | ○入学する小学校の見学はやったほうがよい。子どもの特性や苦手なことをまとめたサポートブックをまとめておくとスムーズに支援が受けられる。自分でインターネットでサポートブックのフォーマットを探してきて作成した。現在は市で統一したサポートブックのフォーマットはあるが、子どもの入学時にはフォーマットはなかった。 |
| 小学校 G<br>(特別支援学級) | ○ <u>見学や体験はとてもよい</u> 。特別支援学級の先生の異動の有無に関わらず、学校に入学前に何回か通って、保護者と特別支援学級の先生との信頼関係を築けておくとよい。入学前の小学校との関わりは大切である。                                                |
| 特別支援学校 G          | ○(略) <u>体験入学とか学校見学、親の学校見学みたいなのが結構早い時期にあったほうが</u> 、話聞いたりとか、学校の様子をみただけで、あーっ、大丈夫かな、学校いけるかなっていう、ちょっと安心が生まれました。                                               |
| 特別支援学校 G          | ○うちは、もちろん車いすなので。教室というか、そういうのを見学というか、やっぱり先生方とお話をしたりするというのは、 <u>見学</u> という形で。そういう機会があればした方がよいのかなあと感じます。                                                    |

※上記は保護者の発言をそのまま記述している。

表 4-3-16 これから入学する児童の保護者へのアドバイスに関する発言例（抜粋）

|                   |                                                                                                                    |
|-------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 小学校 G<br>(特別支援学級) | ○私が歩んできた道で、感じたことですが、 <u>学校に求めない</u> ところです。それが一番かな。期待はしない。学校にすべてを求めない。自分でできることは自分です。                                |
| 小学校 G<br>(通級指導教室) | ○ <u>相談相手を見つけておく</u> とよい。                                                                                          |
| 小学校 G<br>(通常の学級)  | ○まず <u>子どもの障害を理解してほしい</u> 。それが 1 番。やっぱり子どもちょっとおかしいなって分かっているはずなのに。分かっちゃう自分が怖いというか。とにかくためこまない。ひとりでかかえこまないことが大事だなと思う。 |

|          |                                                                                                                                                         |
|----------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 特別支援学校 G | ○手続きが大変なので、まあ、早めに、早めにやらないと、後半バタバタしちゃうよっていう。                                                                                                             |
| 特別支援学校 G | ○いろんなところを見てほしいのと、なんかわからないこと、小さいこと、こんなこと聞いてもいいのかなっていうのでも、聞いたほうがいいですね。とにかく自分から動かないと何がわからないのかも、たぶん教育委員会にきかなきゃいけないとかわかんないと思うので、自分からどんどん動いて、遠慮せずにいけばいいと思います。 |

※上記は保護者の発言をそのまま記述している。

#### （４）就学するときの心の支え

就学を決める際に、一番心の支えになったこと、前向きにしてくれたことは何かを尋ねた結果の要旨は表 4-3-17、現在一番心の支えになっていることについて尋ねた結果は表 4-3-18 の通りである。なお、表 4-3-19 及び表 4-3-20 は参加者から得られた発言の抜粋である。

表 4-3-17 就学時に心の支えになったこと

|          |                                                                                              |
|----------|----------------------------------------------------------------------------------------------|
| 小学校 G    | ○療育機関（３）<br>○療育機関の職員（３）<br>○先輩ママ（２）<br>○家族（３）<br>○ドクター<br>○療育機関のママ<br>○配偶者<br>○保健師<br>○他の保護者 |
| 特別支援学校 G | ○家族（３）<br>○兄弟<br>○周りの友達<br>○療育施設<br>○子ども<br>○先輩ママ<br>○特になし                                   |

表 4-3-18 現在心の支えになっていること

|       |                                                                                                                       |
|-------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 小学校 G | ○家族（７）<br>○ママ友（２）<br>○自分の時間<br>○学校の先生<br>○相談できる人がいること<br>○他の保護者<br>○下の子を産もうという気持ち<br>○子どもが学校に行ってくれること<br>○子どもが笑っていること |
|-------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

|          |                  |
|----------|------------------|
| 特別支援学校 G | ○家族（3）           |
|          | ○配偶者（2）          |
|          | ○先生方（2）          |
|          | ○成長が感じられる毎日      |
|          | ○愚痴を吐き出せる人       |
|          | ○子どもが元気に過ごすこと（2） |
|          | ○子どもの成長          |
|          | ○情報              |

就学前は療育機関の職員や家族が心の支えとして多数を占めている。いわゆる先輩ママと言われる既に就学に係る教育相談を経験した保護者の存在も大きいようである。

就学後は家族が心の支えとなっている。我が子の成長も心の支えの一因となっているという発言も見られた。

先輩保護者については、その出会いの機会がない保護者もいることが考えられる。この場合、例えば就学先決定に関するガイダンスの時に、先輩保護者の経験談を聞く機会を設けるなど、療育機関等に通っていない保護者への支援も必要であろう。

F G I を実施した際に、多くの保護者から、「このように就学に関する課題を話し合う場があつてよかった」という意見をいただいた。このことから、保護者同士が情報を共有することは有益であると考えられる。

第4章のⅡの表4-2-17において、入学先を決める際に参考にしたものとして、家族や知人の意見という回答が、小学校、特別支援学校を併せて7件あった。このことから、家族や知人は就学先決定の際に大きな役割を果たしていることがうかがえる。心理的な支えでもあり、参考意見を求める先としての家族や知人にも就学に関する知識などをもってもらうことが、さらによりよい就学につながっていくことも考えられる。

表4-3-19 就学時に心の支えになったこと（抜粋）

|                   |                                                                                                                                                                                  |
|-------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 小学校 G<br>(特別支援学級) | ○私はやっぱり先輩ママと、子どもたちですかね。支援学級の子どもたちが我が子じゃないですけど、やっぱりちょっとずつ成長していることがわたしも見えるし、あ、うちも子もちょっとずつ成長するのかな。やっぱり自分の子とずっと一緒にいると成長がわかんないですけど、でもなんか人の子って、一つ壁へだててみえるっていうか、あ、頑張ってるなどか、そういうのが支えですね。 |
| 小学校 G<br>(特別支援学級) | ○私は、療育先の先生と主治医の先生。相談されたことを旦那と決めて、それを認めてくれる家族がいたので、それで救われました。                                                                                                                     |
| 特別支援学校 G          | ○周りの友達と、普通じゃない、普通ではない経験に楽しみたいという気持ちもあった。ま、息子の人生もあるんですけど、自分の人生も楽しもうと思って、前向きにならないと思って、とにかく笑っていたいなと思って。                                                                             |
| 特別支援学校 G          | ○子どもの存在ですかね。今でも、なんだろう、一番生きやすい環境になんとか行かせてあげたい。うん、そういう気持ちが強かったので。                                                                                                                  |

※上記は保護者の発言をそのまま記述している。

表 4-3-20 現在心の支えになっていること（抜粋）

|                   |                                                                                                                                      |
|-------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 小学校 G<br>（通常の学級）  | ○こうやって会ったときに、 <u>他の親御さんと共感</u> 。知っている親御さんや先生たちが成長を認めてくれること。                                                                          |
| 小学校 G<br>（通級指導教室） | ○ <u>家族と学校の先生、子どもたちの成長</u> に支えられている。支援会議においても家族間でも意思を統一して家族の願いを伝えることができていること。特別支援学級の先生とも何かあれば相談できることが安心につながっている。家族の成長や理解も心の支えになっている。 |
| 小学校 G<br>（特別支援学級） | ○療育で知りあったお母さんと、ちょっとだけ主人、子ども自身も入ってきたなど、成長する姿をみると、このままやっていけるかなと励みになる。                                                                  |
| 特別支援学校 G          | ○家内でしょうね あと上の 2 人の子が優しい。息子に障害があることで、うちの家族にプラスに働いたことがある。仲はいいです。やっぱり家族ですね。                                                             |
| 特別支援学校 G          | ○私も子どもが、 <u>元気で楽しそうに</u> 、うん、日々生活しているのが支えです。                                                                                         |

※上記は保護者の発言をそのまま記述している。

#### （5）就学相談の内容と実際との相違

就学に関する相談を受けた際に説明されたことと、実際に就学してみて説明の内容と異なったことは何かについて、また、入学前と後では気持ちの変化はあったかどうかについて、質問 9 として尋ねた。結果は表 4-3-21 の通りである。なお、表 4-3-22 は参加者から得られた発言の抜粋である。

表 4-3-21 就学時の説明とイメージが異なったこと

|       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|-------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 小学校 G | <ul style="list-style-type: none"> <li>○幼稚園の時より手厚いと感じた</li> <li>●担任が変わると支援が変わること</li> <li>●学校の先生は意外に何もしてくれない</li> <li>●交流学級に行かされることが多く子どもがきつかった</li> <li>●期待というものを切り捨てた</li> <li>○特別支援学級に行ってよかった</li> <li>●移行支援をしてもらえんと思っただけでももらえなかった</li> <li>○不安はあったが入学したら子どもに合っていた</li> <li>●思っていたような施設整備がなされなかった</li> <li>●担任に子どもが怠けていると思われた</li> <li>●思ったよりも交流学級で過ごすことができなかった</li> <li>●通常の学級の担任が子どものことをよくわかっていない</li> <li>●「交流学級に行かせてもらっている」というニュアンスが気になる</li> <li>○いろいろあるけど本人が楽しく学校に行っている</li> <li>●先生との相性の問題がある</li> <li>○交流学級の子どもたちと異なる動き（移動）をすること</li> </ul> |
|-------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

|          |                              |
|----------|------------------------------|
| 特別支援学校 G | ○特にない（５）                     |
|          | ●特別支援学校に行ったらルールがあると思っていたが違った |
|          | ●担任のあたりはずれ                   |
|          | ●平日に行事が多い                    |
|          | ●子どもが実態別に分かれていない             |

※各発言の文脈から判断し、文頭の「○」は概ね肯定的（ポジティブ）な意見か、どちらでもないと受け取れる意見、「●」は否定的（ネガティブ）な意見として区別した。

小学校 G と比較して特別支援学校 G は就学前と就学後のイメージの相異はあまり見られなかった。

小学校 G では、学校の教員との関係に課題があるという発言が多く見られた。これは、一部特別支援学校 G でも見られた。特に担任の障害に関する理解が乏しいと感じていることや、それに付随して、担任と子どもとの相性の問題も挙げられた。特別支援教育は学校全体で取り組むべきであるが、教員に対する特別支援教育の理念の周知については未だ課題が残る。そのため、教員の特別支援教育に係る知識や技能などの専門性の向上が、より一層求められる。

表 4-3-22 就学相談時の説明と実際が異なったことに関する発言例（抜粋）

|                   |                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|-------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 小学校 G<br>(特別支援学級) | ○私は、入学を迎える前に期待というものを一切捨てるような状況になった。もっといろんな人に相談できるんじゃないかと思ったけど、結局は親で、 <u>相談できなかったなという気持ちのまま、行ったので、期待通りに何もしてもらってないっていうところで、ギャップというのはない。</u> 大きな期待は抱いてないから、何もしてもらわなくても、そうだね、そのままだねって、マイナスではあるけど、ただ文句があるわけではなく、今はそういう現状なんだなって、小学校のレベルはそういう感じなんだなって思う。だから距離は裏切らなかったの、近くに選んでよかったねっていう感じ。 |
| 小学校 G<br>(特別支援学級) | ○たまたま支援級の先生がすごくいい先生で、私は全然学校の様子とかはみれないんですけど、連絡帳とかでもその日の様子を書いてくださって、夕方電話でこういう風にしたいっていうのを伝えてもらっている。行っていないのに学校の様子がわかって、本当に支援級に行ってよかったね、安心するなっていう風に思いました。                                                                                                                               |
| 特別支援学校 G          | ○私は <u>支援学校に行ったらルールに乗っていけるかな</u> と思ったら、 <u>定期的にお母さんどうしましょうかとか、将来どうしますかとか、ここ出たら高校はどうしますかとか、高等部出たら何させますかとか</u> が、わーとくる。だから、今は情報がほしいですね。今自分が悩んでないから、もっと悩んだ時にこれをさせたいんですよというのが出ると思うんですけど、今ちょっと悩みがなくて、逆に悩みがないのが悩めます。                                                                     |
| 特別支援学校 G          | ○やっぱり <u>担任の先生のいわゆるあたりはずれ</u> 。どこの学校もあると思うけど、私は逆にそういう気持ちになると勉強させてもらえるという風にとらえるようになったので、違うな、入学前と感ずることもないし、こうしてくださいと先生に伝えられるし、先生もちゃんとくみ取ってくれるので、全然悔いはない、行かしてよかったねと。                                                                                                                  |

※上記は保護者の発言をそのまま記述している。

#### 4. まとめ

F G I で得られた発言を整理した結果、小学校 G と特別支援学校 G の発言の差異と共通点、就学先決定に関する課題という視点で以下にまとめる。

##### (1) 小学校 G と特別支援学校 G の差異

小学校 G と特別支援学校 G の発言の差異について、小学校 G と特別支援学校 G では、小学校 G のほうが比較的就学に関する相談等に対してネガティブな経験をしている傾向が見られた。

また、就学先を決めた主な理由に差異が見られた。就学先決定の理由として、小学校 G は居住地にある学校であること、特別支援学校 G は我が子に応じた指導・支援が受けられることが多かった。特別支援学校は居住地に設置されていないこともあることや、我が子の実態から小学校における学びの場では対応が困難であると判断したことなどがこのような結果に反映されていると考えられる。

就学先を決定する際に大変だったことにも差異が見られた。小学校 G では、就学先を決める判断をすることや、就学の手続きに関することが大変であったと感じていたが、特別支援学校 G は、登下校をどうするか、放課後デイサービスの利用をどうするかなど、就学した後のことを心配する傾向があった。

このように、就学先によって、保護者が感じている不安感や負担感に差異がある可能性があることを相談担当者はあらかじめ掴んでおく必要があると考えられる。

##### (2) 小学校 G と特別支援学校 G の共通点

小学校 G と特別支援学校 G で、ほぼ共通していると考えられることは二点挙げられる。

一点目は、両グループとも、就学先を考える際によかったこととして、学校見学等を行ったことを挙げていることである。見学をすることで必要な情報が得られたり、これまで不明確だったことが明確になったりしたことが、保護者の不安の解消につながっていたようである。就学に関する相談を行う側は、保護者が、「何が分かって」いて、「何が分からない」か、ということを事前に掴むことができれば、適切な就学に関するガイダンスを行うことに近づくことができるのではないかと。

二点目は、家族や知人、療育機関の職員などが就学相談時期の心の支えになっており、特に家族の支えは入学後も継続しているということである。このことから、家族全体で子どもを支えるという家族の関係性は重要である。

我が子に中心的に関わっている母親や父親を支えるために、家族や知人も特別支援教育に関する知識を身に付けてもらうような手立てを検討することは一考の価値がある。家族や知人に対する就学に関する理解啓発を行うことも必要と考えられる。

##### (3) 就学先決定に関する課題

就学に係る教育相談について、改善すべき課題があると考えられることが、保護者の発言にもあった。「相談と言いながらすでに我が子の就学先が知能検査等で決められていたこと」「就学相談の開始時期やその後の行政等の対応のスピード感に課題があ

る」がそれに当たる。特に前者については、保護者に対して、なぜその就学先を提案するのかという根拠を示す必要がある。中には、「知能検査は子どもの実態の一部分を切り取ったものである」ということを理解している保護者もいる。就学先は、子どもの実態を総合的に判断して決定するものであるから、知能検査だけで測ったのではないということを保護者に対して説明する必要がある。

上記のこととも関連するが、やはり就学に係る教育相談に対応する者の資質向上は欠かすことのできない課題である。就学前の障害のある子どもをもつ保護者が、どのような思いをもっているのかについて、可能な限り推し量ることができるということは、相談担当者の資質の必要条件であると考えられる。子どもの実態や保護者側の思いと、行政側が設定している就学に関する基準を摺り合わせて合意形成を図っていくために、当事者である子どもや保護者との友好的関係づくりからしっかりと始めることが大事である。そのためには、相談担当者がホスピタリティの精神をもつこと、カウンセリングに関して最低限基本的な技法等を学ぶことが必要である。

就学先決定のプロセスに関して、自治体によって就学相談の実施方法や内容が多様であり、改善をしてほしいという声も上がっていた。例えば、いわゆる5歳時健康診断を実施している自治体と実施していない自治体があり、実施していない自治体の保護者からは、「ぜひ実施してほしい」という意見も挙がっていた。このような意見についても真摯に耳を傾けていくことが大事である。

## 引用文献

小林 司（編著）（2004）．カウンセリング大辞典．新曜社．

## 参考文献

S・ヴォーン, J・S・シューナム, J・シナグブ（著）, 井下理（監訳）, 田部井潤, 柴原宜幸（訳）（1999）．グループインタビューの技法．慶應義塾大学出版会．

（坂井直樹, 李 熙馥）

## IV. 考察

ここでは、第3章で検討した各自治体の教育委員会への聞き取り調査の結果と本章における保護者を対象とした調査の結果を比較しながら、就学に係る教育相談の在り方について提案を行う。

### 1. 就学に係る教育相談において保護者が求める情報

保護者への質問紙調査やフォーカス・グループ・インタビューを通して、子どもの障害の程度によって保護者の就学に係る教育相談を受けた時の気持ちや求める情報に差があることが示された。小学校へ入学した子どもの保護者の場合は、子どもの就学について不安を多く感じており、そのため、就学先決定においてもどこに就学すべきかに関する決定に大変さを感じていたことがうかがわれた。そのため、小学校へ入学した子どもの保護者の場合は、学校見学の有無や手続き、入学先決定の方法や流れ、各学びの場の説明、学びの場の見直しができることやその手続きに関する情報に多く関心を持っていたと考えられる。一方で、特別支援学校に就学した子どもの保護者は、早い時期から子どもの実態について療育機関等とのかかわりを通して把握しており、保護者の中で就学先がある程度早い時期に決まっていたため、実際の就学に係る教育相談では、登下校への対応や放課後の対応等、入学後の生活について特に不安を抱えていた様子が示された。このことは、第3章で示した、教育委員会が保護者に提供する情報を一律に保護者に伝えるのではなく、子どもの障害の程度によって伝える情報を柔軟に調整し、どの情報をどの程度伝えるべきかを吟味することが必要であることを示唆していると考えられる。就学に係る教育相談において教育委員会は、小学校の特別支援学級や通常の学級へ入学することが想定される子どもをもつ保護者には、より早い段階から学校見学等を通して十分に考えるための情報や時間を与えることが重要であり、特別支援学校に入学することが想定される子どもをもつ保護者には、入学後の通学や生活に関する情報もより丁寧に提供することが求められると考えられる。

また、少数ながら中学校や高校、あるいは中学部や高等部への進学に関する情報を求める声もみられた。小学校あるいは特別支援学校への入学に関する情報のみならず、切れ目のない支援として、進学に関する情報を伝え、少しでも保護者が見通しを持てるように情報提供することが必要であると考えられる。

教育支援資料（文部科学省，2013）によると、市町村教育委員会の就学事務担当者は、保護者へ適切な情報提供を行う必要があると述べている。適切な情報提供とは、就学に係る全般的な情報を一律的に、また一方的に伝えるのではなく、子どもの障害の程度や実態に応じて想定される就学先を見据え、その保護者に伝えるべき内容の重みを柔軟に調整しながら提供することであると考えられる。何よりも保護者が、今どのような情報を求めているかを随時確認しながら、相互的な関係の中で情報提供を行うことが重要であると考えられる。

## 2. 教育委員会と保護者との円滑な合意形成に向けて必要なこと

第3章では、教育委員会がとらえる合意形成の課題として、保護者との見解の違いや保護者の障害受容、保護者の高いニーズといった保護者との間で発生する意見のズレがあげられた。しかし、本章の保護者への調査からすると、保護者の中には、教育委員会のかかわり方に疑問や不信感を抱いていることも示された。教育委員会と保護者との間でこういったズレを埋めていくためには、子どもの状態に関する共通理解を図り、保護者の気持ちに寄り添いながら信頼関係を形成することが重要であると考えられる。保護者は、幼稚園や療育センター等日常的にかかわる機関での相談については、好意的で信頼関係を形成していた。しかし、教育委員会は、就学先を決定するための会ではじめて接点をもつことも多く、事務的で権威的な相談になっていたことも保護者の回答からうかがわれる。教育委員会の担当者を信頼していたと回答したある保護者は、教育委員会の担当者が真摯に相談をしてくれたと語っており、教育委員会と保護者との間での信頼関係の形成が、合意形成に向けての基盤となると考えられる。保護者との信頼関係の形成は、教育支援資料（文部科学省、2013）にも強調されている。関係者の心構えとして、保護者の置かれた状況や考え・心情を理解することや、保護者の伴奏者として対応し、すべきことの優先順位を共有すること、保護者の意向を最大限尊重しつつ、本人の教育を第一に考える姿勢を保つこと等が挙げられている（文部科学省、2013）。本章で示した保護者の様々な意見は、新たな発見ではなく、むしろ教育支援資料（文部科学省、2013）において強調されている保護者との信頼関係の形成の重要性をさらに裏付けるものであったと考えられる。

では、教育委員会と保護者との信頼関係を形成するためには、どうすればいいのだろうか。その一つの方法として、保護者が日頃関わっている幼稚園や保育所、療育センター等の機関と連携し、子どもの実態の共有や保護者の気持ちや状況などを共有することが考えられる。子どもの実態を把握し、成長の様子を保護者や関係機関と共有しながら、子どもにとって最も適切な学びの場について話し合いを重ね、保護者が納得できる就学先を決定していくプロセスが求められる。第3章では、就学先決定にかかわり、教育委員会が取り組んでいる保護者支援の一つとして、幼稚園・保育所・子ども園への巡回相談が挙げられている。こういった巡回相談等を活用して、保護者や関係機関と関係作りを行うことが望ましいだろう。

また、巡回相談等を通して保護者と関係性を形成することは、教育委員会が教育相談の課題として挙げていた担当者の専門性の向上や、保護者への説明や対応といった課題にも対応できると考えられる。はじめて就学に係る教育相談を担当する担当者であっても、巡回相談等を通して子どもの実態について理解を深め、保護者の気持ちに寄り添いながら保護者が求める情報を提供することを通して、その子どもにとっての適切な就学先を見極めることにつながると考えられる。また、教育委員会にとって就学に係る教育相談の課題として相談件数の増加が挙げられていたが、巡回相談等を通して日頃保護者と接点を持ち、関係機関と協力することを通して、相談の必要性が高いケースを見極めることにより、相談件数の増加による負担の改善につながると考えられる。

### 3. 今後の課題

就学に係る教育相談は、保護者と教育委員会の二者間で完結するものではなく、入学する学校との三者間での合意形成が必要である。保護者や教育委員会の判断が一致したとしても、学校側の受け入れ体制ができていないと、障害のある子どもに十分な学びを与えることはできない。就学先決定は、保護者と教育委員会との話し合いの終着点ではなく、スタート地点であり、子どもや保護者のスタートを支えるのは学校である。実際、多くの保護者は学校の対応の良し悪しによって就学に対する気持ちに変化していたことを述べており、就学後も当然ながら学校の対応によって、「ここに入学してよかった」ととらえる保護者がいる一方で、「就学に係る教育相談の時に言われた学校での支援のイメージとのギャップが大きい」ととらえる保護者がいた。第3章で検討した教育委員会も学校の受け入れ体制等について課題を述べており、教育支援資料（文部科学省，2013）にも、学校の関係者は障害のある子どもに対する教育の責任があるとともに、障害の状態等の変化に対しても主体的にフォローを行っていく必要があると述べている。障害のある子どもの就学先決定は、保護者にとっては大きな責任を負わせることになる。本章のフォーカス・グループ・インタビューに参加したある保護者は、現在子どもが6年生であるが、「未だに本当にそこ（就学先）でよかったのだろうかという思いはある」と涙ながらに話していた。このような保護者の不安を払拭し、障害のある子どもや保護者が安心して就学を迎え、充実した学びを保障するためには、学校の支援体制の強化や協力、特別支援教育の専門性の向上、教員の指導力の向上が不可欠であると考えられる。

就学は障害のある子どもの学ぶ権利を保障し、インクルーシブ教育システムの推進に向けて重要な入口である。そのため、教育委員会は保護者の気持ちに十分寄り添いながら、子どもの普段の様子について巡回相談等を通して関係機関と協力して把握していくとともに、子どもの状態によって保護者が求める情報を的確に、柔軟に伝え、時間をかけて保護者と建設的な対話を続け、合意形成をしていくことが求められる。また、学校も受け入れ体制を整え、学校全体で特別支援教育を推進し、教員の指導力を向上させ、保護者や子どもが安心して就学し、成長できるような体制づくりを行う必要があるだろう。今後は、就学に係る教育相談や就学先決定のプロセスにおける学校の役割や、学校が積極的に協力することによる成果や課題について検討することが必要であると考えられる。

### 引用文献

- 文部科学省初等中等教育局特別支援教育課（2013）．教育支援資料-障害のある子供の就学手続と早期からの一貫した支援の充実-．  
徳永 豊(2017)．障害のある子どもの就学先決定と心理学的支援：コンセンサス・ビルディング・モデルの提案．福岡大学人文論集，48（4），1027－1053．

（李 熙馥）

## 資料① 保護者調査票



独立行政法人

国立特別支援教育総合研究所

### お子様の小学校・特別支援学校入学当時の相談内容等に関するアンケート

このアンケートは、お子様の入学先を考えていらした時に、どのような相談をされていたのか、入学に当たり必要な情報とは何だったのか等について、お聞きするものです。

このアンケートは、任意であり、皆様の健康状態等に十分配慮して行います。ご回答いただかないことで保護者の皆様やお子様が不利益を被ることは一切ございません。回答した内容について同意撤回を行うことも可能です。

なお、皆様からいただいた回答は、個人が特定されないように処理すること、研究の目的以外には使用しないことを、堅くお約束致します。また、ご回答内容がお子様の学校に伝わることは一切ございません。

得られた回答の結果は、当研究所の報告書等にまとめて発信する予定（HP で公開）です。また、学会での発表等で、広く研究成果を発信させていただくこともあります。これからお子様の入学を控えていらっしゃる多くの保護者様が少しでも安心し、納得して入学を迎えられるよう、この結果を活かしていきたいと存じます。

ご理解・ご協力の程、どうぞよろしくお願い致します。

★質問項目は、14 問～20 問です。

★回答時間は、約 10 分程度です。

#### 【本件照会先】

独立行政法人国立特別支援教育総合研究所

研修事業部 上席総括研究員 牧野 泰美（研究代表）

[Tel:046-\\*\\*\\*-\\*\\*\\*\\*](tel:046-***-****) Email:\*\*\*\*\*@nise.go.jp

インクルーシブ教育システム推進センター 主任研究員 李 熙馥<sup>い ひぼく</sup>（研究副代表）

[Tel:046-\\*\\*\\*-\\*\\*\\*\\*](tel:046-***-****) Email:\*\*\*\*\*@nise.go.jp

I. お子様について教えてください。

(1) お子様は現在、どこで学んでいますか？✓をしてください。

☐ 通常の学級

☐ 特別支援学級

☐ 特別支援学校

☐ 通級による指導（在籍は通常の学級）

(2) お子様は現在、何年生ですか？（ ）年生

(3) 差し支えなければ、お子様の障害名を教えてください。

( )（「うたがい」も含む）

(4) お子様は現在学んでいる場所が、入学時と異なる方にお聞きます。

①入学時、お子様は、どこで学んでいましたか？✓をしてください。

☐ 通常の学級

☐ 特別支援学級

☐ 特別支援学校

☐ 通級による指導（在籍は通常の学級）

②学んでいる場所を変更したのはいつですか？（ ）年生の（ ）月

③なぜ変更したのですか

( )

(5) お子様の現在学んでいる場所に、決めたきっかけは何ですか？あてはまるものを、3つまで選んで✓して下さい。

☐ 子どもに必要な配慮や支援が適切に受けられると思ったから

☐ 地域で育てたかったから

☐ 家族（夫、祖父母等）からの意見

☐ 教育委員会や幼稚園・保育所等の関係者からの意見

☐ 医師や心理士などの専門家等からの勧め

☐ 通学に便利だから（例：自宅から学校が近い、通学バスがある 等）

☐ みんなと同じところに行かせたか

☐ 就学奨励費等、経済的な補助がもらえたから

☐ 親の仕事の場から近いから

☐ 学校見学等で子どもがその学校を希望したから（相性がよさそうだったから）

☐ 子どもの学力をしっかりと保証してくれそうだったから

☐ 学童・児童館・デイサービス等が利用しやすかったから

☐ その他（ ）

(1) 入学先を決めるための相談は、いつから始めましたか？✓をしてください。

- (2) 入学先をどのように決定するか（以下、「入学先決定」とします）について、教育委員会が行う説明会がありましたか？✓をしてください。

- (3)(2)で「説明会に参加した」と回答した方にお聞きします。

- ( ) 月頃

- ☐適切だった
 ☐もっと早い方がよかった（ ）月頃  
☐もっと遅くてもよかった（ ）月頃

- ☐ 入学先が決まるまでの一般的な手続きの流れ
- ☐ 障害がある場合の入学先決定の方法や流れ
- ☐ 特別支援学校、特別支援学級、通級による指導、通常の学級それぞれの場所における学習内容や学校生活の違いや特徴に関する説明
- ☐ 特別支援教育に関する用語等の説明
- ☐ 入学後に学んでいる場所について見直すことができることやその手続き
- ☐ 入学後に学校で受けることができる配慮内容について
- ☐ 必要な支援内容を記載した文書（あるいはファイル、シート）等の取り扱いについて
- ☐ 学校体験の有無や手続きについて
- ☐ 入学先決定について、教育委員会と保護者が話し合うことができることやその時期について
- ☐ 入学先についての相談窓口
- ☐ 関連機関の一覧について
- ☐ 障害のある子どもの将来像について
- ☐ その他（ ）

☐ 知りたい内容が整理されていて、参考になった

☐ まあまあ参考になった

☐ 言葉が難しく、理解することが難しかった

☐ 情報が多くて、理解することが難しかった

☐ 内容が分かりにくく、参考にはならなかった

☐ その他（

- ☐ 入学先が決まるまでの一般的な手続きの流れ
- ☐ 障害がある場合の入学先決定の方法や流れ
- ☐ 特別支援学校、特別支援学級、通級による指導、通常の学級それぞれの特徴や違いに関する説明
- ☐ 特別支援教育に関する用語等の説明
- ☐ 入学後に学んでいる場所について見直すことができることやその手続き
- ☐ 入学後に学校で受けることができる配慮内容について
- ☐ 必要な支援内容を記載した文書（あるいはファイル、シート）等の取り扱いについて
- ☐ 学校体験の有無や手続きについて
- ☐ 入学先決定について、教育委員会と保護者が話し合うことができることやその時期について
- ☐ 入学先についての相談窓口
- ☐ 関連機関の一覧について
- ☐ 障害のある子どもの将来像について
- ☐ その他（ ）

- ☐入学先が決まるまでの一般的な手続きの流れ
- ☐障害がある場合の入学先決定の方法や流れ
- ☐特別支援学校、特別支援学級、通級による指導、通常の学級それぞれの特徴や違いに関する説明
- ☐特別支援教育に関する用語等の説明
- ☐入学後に学んでいる場所について見直すことができることやその手続き
- ☐入学後に学校で受けることができる配慮内容について
- ☐必要な支援内容を記載した文書（あるいはファイル、シート）等の取り扱いについて
- ☐学校体験の有無や手続きについて



(5) みなさんに、お聞きします。

お子様の入学先を決める際、誰とよく相談されましたか？あてはまるものを3つ  
まで✓してください。

- ☐ 家族（続柄： ）（複数可）  
☐ 幼稚園・保育所の先生  
☐ 小学校の先生  
☐ 特別支援学校の先生  
☐ 療育センターやデイサービス等の職員  
☐ 同じ悩みを持っている保護者やすでに入学しているお子様の保護者  
☐ 教育委員会  
☐ 専門家（例：医師、心理士、大学教授等）（職種： ）  
☐ 保健師  
☐ その他（ ）

(6) もし、お子様の今学んでいる場所を見直したい(すでに変更した)場合、手続きの方法や時期等についてご存じですか？(ご存じでしたか？)✓をしてください。

- ☐学んでいる場所の見直しが可能であることは知っていて、手続き等についても知っている（知っていた）
- ☐学んでいる場所の見直しが可能であることは知っているが、手続き等については知らない（知らなかった）
- ☐学んでいる場所の見直しが可能であることは知らない
- ☐その他（ ）

(7) お子様が入学後、どのようなフォローを受けていますか？✓をしてください。

- ☐教育委員会から連絡があり、子どもの様子について相談・共有している
- ☐保健師から連絡があり、子どもの様子について相談・共有している
- ☐入学前から相談していた学校の先生と、子どもの様子について相談・共有している
- ☐クラスの担任や担当の先生と、子どもの様子について相談・共有している
- ☐その他（ ）

皆様からいただきましたご回答を十分に活かすために、追加質問をさせていただく場合がございます。ご回答してくださった方を特定するため、差し支えなければ、ご回答いただいた方のお名前、もしくはニックネームを教えてください。個人情報につきましては、厳重に管理致します。

質問は以上となります。ご協力ありがとうございました。

## 資料② FGI 質問項目

### 【就学前】

1. お子様の入学先を決める相談を始められた時の、お気持ちはどうでしたか？
2. 入学に関する相談をされてこられたと思いますが、その相談は、どうでしたか？  
(内容の適切さ、わかりにくさ、担当者との信頼関係、忙しさ、障害受容・・・)
3. 入学に関する相談で、これはよかったなと感じたことは何でしたか？
4. 逆に、これはよくなかった、嫌だった、面倒だったことは何でしたか？
5. 入学前に、知っておいた方がいい、やっておいた方がいいと感じることは何ですか？
6. 今のお子様の在籍校に決めた理由は何ですか？
7. 入学先を決める時に、一番大変だったことは何ですか？
8. 一番心の支えになったこと、前向きにしてくれたことは何ですか？

### 【就学後】

9. 実際に入学してみて、どうですか？相談時に受けた説明やイメージと違うところは、どこですか？入学前の気持ちとの変化はありますか？
10. 入学前にかかっていた相談機関（教育委員会等）から、入学後もこんな支援があったらうれしいというのはありますか？
11. 学校にお願いしたい支援内容はどんなことがありますか？

12. これから小学校へ入学する子どもをもつ保護者の方に、先輩保護者としてアドバイスするとすれば、どのようなことを伝えたいですか？
13. これから、中学校への入学、あるいはお子様の成長に合わせて学ぶ場所を見直すこともあるかと思いますが、それらに向けて、これからの入学に関する相談に望むことはなんですか？（ほしい情報、ほしい支援内容・・・）
14. 入学してみて、お子様が成長したと感じるところはどこですか？それはなぜだと思いますか？
15. 今、みなさんにとって一番心の支えになっているのは何ですか？

## 資料③ FGI 説明文

### お子様の小学校・特別支援学校入学当時の相談内容等に関する インタビュー説明文

本日のインタビューは、事前にご記入いただきましたアンケートのご回答を基に、お子様の小学校・特別支援学校入学を控えていらしたときに、どのような相談をされていたのか、入学に当たり必要な情報とは何だったか等について、詳細を直接皆様におうかがいするために行うものです。

なお、本日はグループで行いますので、質問に対してお答えにくい事がありましたら、ご回答いただかなくて結構ですので、ご遠慮なさいませようお願いします。

本日のインタビューはおよそ 90 分を予定しています。長い時間ですので、途中で休憩を入れるなどしますが、体調等優れない場合などはご遠慮なくお知らせください。また、途中からでもインタビューへの参加を撤回することができますので、お知らせください。

本日のインタビューでいただきました回答は、個人が特定されないように処理をすること、研究の目的以外には使用しないことを堅くお約束いたします。また、お子様が通っている学校に、インタビュー内容が伝わることは一切ございません。

また、インタビューの際には、後に内容を再確認するために IC レコーダーにより録音を行います。確認終了後は録音データを確実に消去します。

本研究で得られた回答結果は、当研究所の報告書作成（HP で公開）や学会での発表等でこの結果を研究成果として発信させていただきます。

なお、回答の情報は電子データとして保存します。その際にはパスワードをかけた上で適切に管理します。なお、事故等による不測の事態に備え、電子媒体にバックアップを保存しますが、電子媒体は鍵のかかる保管庫にて適切に管理いたします。

最後に、本日のインタビューを行うに当たりまして、お手数ですが、研究協力承諾書のご記入をお願いいたします。また、インタビュー終了以降、回答した内容を撤回したい場合にはお配りしました研究協力撤回書を下記「本件照会先」までお送りいただくか、メールにてお知らせいただきますようお願いします。

#### 【本件照会先】

独立行政法人国立特別支援教育総合研究所

研修事業部 上席総括研究員 牧野泰美（研究代表）

Tel: Tel: 046-\*\*\*-\*\*\*\* E-mail: \*\*\*\*\*@nise.go.jp